215900
昭和25年10月8日

村松改克口供

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

第壹號

明治十年七月三十一日申立

高知縣士族

村松政（マサ）克（カツ）

當七月廿七年七ヶ月

一自分儀ハ高知縣士族村松彦藏長男ニメ嘉永三年庚戌十二月出生セリ家禄ハ惜ニ記臆セサレトモ拾壹石餘ナリ

一自分儀ハ立志社其外何レノ社ニモ入社セス

一自分ト藤好靜トハ親屬ニメ殊ニ入塊ノ厶ユヘ時々往来談話セシカ不圖日向行ノ企ニ及ヒタルナリ

一右日州行ヲ企テタル所以ハ一ハ戰爭ノ模様ヲ目撃スル為メ一ハ賊ノ名義ヲ尋ヌル為メ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

メノ両目的ニシテ別ニ一ノ的ナシ

一皇國ノ人ハ國家ノ為ニハ斃レネハナラヌト思ヒ込ミテ日向行ヲ發意セリ

一自分共ハ一介ノ書生ニシテ固ヨリ賊地探索ノ事ニ関スルノ職掌タルニアラサルハ勿論ナレ𪜈西南戰爭以来唯タ風聞ノミニテ實事更ニ相分ラス然レハ今ヤ實地ニ就テ賊軍ノ景況ヲ探索シ且ツ某名義ノ有ル處ヲ知リ得テ然後國家ニ盡スヘキハ自分共ニ於テ國民タルノ義務ト思考シ日向ニ趣キタリ

一最初藤ト日州行ヲ相談セシ日ハ覺ヘサレ𪜈本年四月中旬ノ事ナリ其節孰レノ宅ニ會セシヤ又孰レカ先ニ發言セシヤ記臆セス

一日州行ノ企ハ國家ニ盡カスルノ誠心ヨリ出デタルヿナレハ其段公然ト縣廳ヘ願出ツヘキ筈ノ所自分共一書生ノ身ヲ以テ日州行ヲ願ヒ立ツル𪜈縣廳ニ於テ必ス聞届アルマシト思考セシ故ニ唐筆墨購求ノ為メ長嶋表迄趣ク旨ヲ以テ縣廳ヲ欺キタルヿニテ別ニ目的ヲ隠匿セシカ為メニ欺キタルニアラス此義ハ西京ニ於テモ御詰問ヲ受ケ企ク自分共不注意ヨリ生セシヿニテ實ニ恐入ナリ

一自分ニハ年来民撰議院ヲ設立シ民権ヲ擴張致度ノ宿志ナルカ右議院ノ事ハ先年板垣副島等ノ建言アレ𪜈今ニ於テ行ハレス實ニ遺

憾ノ折柄今般西國ノ擾乱アリ就テハ其原因
自然民撰議院ノ事ニ関セシヤモ難計ニ付兎
ニ角其原因ヲ探索シ果シテ然ラハ之ヲ政府
ニ建白シ民撰議院設立ノ事ヲ遂ケタキ所存
モアリタリ併シ此事ハ自分ノ意中ニ含蔵シ
テ藤トモ一切相談セサリシナリ
一日州ヨリ歸縣ノ上ハ直ニ縣廳ニ實事ヲ以テ
届出ヘキノ處無其儀猶ホ之ヲ隠匿シタルハ
最初詐偽ノ申立ヲナシ出立シタル ニ付今更
其事ヲ申出タラハ大ニ譴責セラレンコトヲ恐
レテナリ
一真ニ國家ノ為メニ盡力シ斃レテ後已ムノ決
心ヲ以テ日州行ヲナシタル程ノ者カ飯縣ノ
上其實事ヲ縣廳ニ届出タラハ最前詐偽ヲ申
立タル譴責ヲ受ケンコトヲ恐ル、ト云ヒ剰ヘ
高知縣ニ於テ捕縛ノ上警察官吏ノ尋劇ヲ受
テモ仍ホ實事ヲ陳述セサルハ前後不揃ノ申
立ナリ然レハ日州行ノ事ニ就テハ公然口外
スルコト能ハサレ情實アルヘシトノ御詰問ニ
對シ其辨解ハ出来サルナリ
一日州ニ往キシハ賊軍ノ名義及ヒ其強弱ヲ探
索スルノ目的ナリシカ右様ノ事ハアカラサ
マニ問ハル、者ニ非ル故桐野等ニ面會ノ節
ハ問ハサリシナリ併シ我ヨリ問ハサルニ桐
野云官吏西郷ヲ暗殺セシコトヲ謀リ刺客ヲ我
カ縣ニ發遣セリ因テ不得已兵ヲ擧ケタリ其

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

刺客ノ口供ハ印刷シテ諸方ニ須布セリト
一暗殺ノコトヨリ以テ賊軍ノ口實トスルコトハ御布告モアル故必シモ賊地ニ入リテ探索セスモ親シク賊徒ノ說ヲ固ヨリ明了ナルコトナレモ
聽クヤハ自然滯布告ノ趣旨トハ相違メ別ニ名義アルカモ難計ト自分ニ於テハ思考セシナリ且官軍ヨリノ電報ハ時々承知致セモ勝利ヲ公布シ敗衂ヲ隱秘スルハ軍事ノ常ナル故實地ニ就テ其勝敗ヲ目擊致シ度心意ナリ
シ
一桐野ニ面會ノ節自分ヨリ民撰議院ノコトヨリ兵ヲ擧ラレタルニハ非スヤト問ハサリシハ既ニ桐野ヨリ擧兵ノ名義ハ暗殺事件ナリ

ト語リタルニ付然レハ民撰議院ノ事ニハ毫モ関係ナキコト自分ニ於テ承知セシ故ナリ
西郷等ニ於テハ豫テ民撰議院ノ持論アル者ニアラス且其擧兵ノ原因ハ疾クヨリ世上ニ流傳シテ明了ナルニ死生閒ノ危キヲ蹈ミ慥々賊地ニ立入リ其擧兵ノ原因ヲ探索スルトハ成程事理ニ於テアルマジキコトナレモ自分ニ於テハ其邊ニ考ヘ及ハス只一途ニ此擾乱ハ民撰議院ノ事ヨリ起リタル者カト存シ込ミ日向ヘ參リタリ左スレハ桐野ニ面會ノ節其擧兵ノ目的ノ民撰議院ニアルヤ否尋問スヘキナレモ有様ハ其節未練ナカラ臆病心差起リ猥リニ擧兵原由等ヲ論シ自然桐野等カ

215900
2
昭和25年10月18日

明治十年八月二日申立

高知縣士族
村松政克

一一昨日モ申供シタル處民撰議院ノ事ハ自分年来ノ宿志ナリシカ此度西郷等カ兵ヲ擧ルノ目的モ亦民撰議院及ヒ他ニ正シキ名義等ノアルヘシト想像シ實地ニ就テ其目的及戰爭ノ模様ヲ探リ西郷等ノ所為果シテ道理ニ適フヤナラハ共ニ事ヲ為サント存シ込ミ日州行ヲ企テクリ既ニ日向ニ至リ桐野等ノ説ヲ聞クニ及ンテ其目的ハ民撰議院ニアラスメ暗殺事件ニアルヲ判然アルニ付彼トハ共ニ事ヲナサントスル意ハ是ニ至テ全ク消盡シ直チニ歸縣セリ

意ニ逆フ片ハ不慮ノ禍ニ罹ルモ難計ト思惟シテ默止セシナリ

右之通相違無御座候

明治十年八月七日

高知縣士族
村松政克拇印

尤桐野ト談話中自分共歸縣ノ上盡力スヘシ
ト約定シ又桐野ヨリ自分共ニ向ヒ事ヲ起サ
ハ九州ニ渡ルヘシト云ヒ自分共ヨリ心
得タリト答ヘハ實ニ真意アリシニ非ス桐
野等ニ逆ハス無難ニ歸縣致度存念ヨリ心ナ
ラスモ此語ヲ發シタルナリ

一自分民撰議院ノ志願ヲ發起セシハ西南暴動
後ノ事ニアラス明治七年ノ比板垣副島等民
撰議院ノ事ヲ建白セシヨリ至極尤ト存シ込ミ夫ヨ
リ以来晝夜心胸ニ忘レサルナリ曩ニ熊本萩
ノ暴動及ヒ百姓一揆等アリシ毎ニ自分窃
ニ慨歎シテ以為ク速ニ民選議院ヲ設立アラ
ハ此ノ如キ事変ハ生スマシキニト此度西南
ノ事件ニ付テモ亦此ノ歎ニ堪ヘサルナリ

一桐野等カ擧兵ノ名義ヲ探リシハ若シ其名義
十分相立テ尤至極ナルヤ否ハ彼等ト共ニ事ヲ
ナスカ又ハ別ニ事ヲナスカノ所存ナリシナリ賊
軍ノ強弱及ヒ此ノ末何レノ邊ニ撃テ出ルヤ
等ノ事ヲ桐野ニ尋問シタルハ是等ノ事世上
ノ風聞ノミニテハ分明ナラサルニヨリ只其
確說ヲ得ンカ為メニ尋問セシ迄ノコトナリ賊
軍ノ強弱ヲ問ヒ然ル後ニ自分等ノ向背ヲ決
スルノ意アリシニアラス

一自分日州行ヲナシタルハ第一ノ目的ハ西郷等
カ兵ヲ擧ケシコトノ道理ニ適セシヤ適セサル
ヤヲ問フニアリ。其外戰地ノ兵ノ強弱電信位

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

ニテハ分明ナラ、サルニ付親シク見度旨的
モアリ又前途賊ノ戰ヲ為ス方向ヲ承知シタ
キ目的モアリタリ
一自分共ハ西郷等カ民選議院設立ノ為メニ兵
ヲ擧ケタルナラントト思ヒシニ非ス只其兵ヲ
擧ケルニ何ソ名義アルヤ否ヤヲ知シカ為メ
日州行ヲナシタルナリ其名義アリヤ否ヤヲ
知ラントト欲シタルハ民選議院設立ヲ希望ス
ルノ切ナルヨリ起リタルナリ
一民選議院設立ヲ希望スルノ切ナルトヲ其民
撰議院ノ了ニ付テハ曽テ一ノ建白イタシタ
ルニモ非ス何モ縁故ナキ西郷等カ挙兵ノ名
義ノ有無ヲ探ルトハ竹ニ木ヲ續キタルノ

一様ナレ氏自分以為クス政府連ニ民撰議院ノ設
立ナキヨリ斯レ事変ヲ醸セシナリト乃チ此
ノ念慮ヨリ西郷等ノ名義ヲ問シト企テシナ
リ若シ西郷等ノ名義十分立タハ共ニ事ヲ為
スノ積ナリシナリ尤西郷等ニ於テモ民撰議院ノ
目的アルヤモ計リカタシト思考セシナリ
一日州行ヲナシタル第一ノ目的ハ既ニ供述セ
リ其第二ノ目的ハ民撰議院ヲ設立セサルニ
因テ兵ヲ興セシヤ否ヤヲ問フニアリ
一西郷等ノ目的假令民撰議院ニアリ氏尚ホ其
外ニモ十分ノ道理アルニ非レハ其名義立タ
サルナリ何ントナレハ其目的偏ニ民撰議院
ニアレハ兵ヲ擧ルニ先キタチ政府ニ向ヒ幾

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

回モ建言セサルヘカラス其建言モナサスメ
俄然兵ヲ擧ル如キハ臣民ノナスヘキ所ニ非
レハナリ故ニ其目的民撰議院ニアリヒ夫ノ
ミニテハ自分ニ於テ共ニ事ヲナスノ意ナシ
尤其餘ニ十分ノ名義アルハ共ニ事ヲ為スノ
積ナリシナリ

一併シ西郷等ニ於テ他ニ十分ノ名義ナシト雖
若シ民撰議院ノ目的アリテ全ク自分ト同意
ナレハ勿論荷擔スル心得ナリシナリ尤モ荷擔
ト申シテモ西郷ノ手下ニ附テ事ヲナスニハア
ラス歸縣ノ上同志ト議シ然ル後民撰議院設
立ノ事ヲ朝廷ヘ申立ルノ積リナリシナリ

一今西郷等ノ名義ヲ取糺シ其名義果メ民撰議
院ノヿニアレハ歸縣ノ上民撰議院設立ノヿ
ヲ朝廷ヘ申立ルノ積リ云ハ畢竟建白ノ節西
郷等ノ暴動モ民撰議院設立無之ニ由レリト
ノ一句ヲ建白書中ニ書入レ一ツノ引證トス
ル迄ニテ別段緊要ト申程ノ事件ニ非ス且西
郷カ擧兵ノ口實ハ夙ク世上ニ流傳セシヿナ
レハ其名義ノ民撰議院ノヿニアラサルハ素
ヨリ明了ニメ別段取糺スマテモナキヿナリ
既ニ緊要ノ事件ニアラス又西郷等ノ名義ノ
民撰議院ニ非サルヲ知リナカラ管廳ヲ欺テ
縣地ヲ發シ危險ヲ冒シテ賊營ニ入ル等ノ事
ハ如何ニモ不審ノ至ナリ加之民撰議院ノヿ
ハ年来ノ宿志ニメ晝夜忘レカ子夫レ故莫大

ノ借金ヲモ費用シテ日州行ヲナシタルヿナレハ桐野ニ面會ノ節ハ他事ハ差置キ民撰議院設立ノ事ヲ一番ニ發言セサルヿヲ得サルノ理ナリ然ルニ其面會ノ始ヨリ暇ヲ告ル迄遂ニ一言半句モ民撰議院ノヿニ及ヒタルヿナキハ是亦不審ノ至リナリ都テ事理不都合ノ申立ナリトノ御詰問ニ對メハ何分辨解出来カタシ併シ民撰議院ノヿヲ桐野等ニ對シ談話セサリシハ先達テ申上候通何分桐野等ノ怒ニ觸レ身ヲ危クセンヿヲ恐レテナリ

右之通相違無御座候也

明治十年八月七日

高知縣士族

村松政克拇印

215900
3
昭和 年 月 日

第三号

明治十年八月五日申立

高知縣士族

村松政克

一去ル二日自分共民撰議院設立ヲ希望スルノ
切ナルヨリ日州行ヲ企テタリトハ事理不都
合ノ申立ナリトノ御詰問ヲ受ケ其後尚ホ之
ヲ熟考スルニ元来政府ニ於テ民撰議院御設
立ナキニ付自分共ハ不平ヲ懐キタリシナリ
此度日州行ヲ企テタルハ賊軍ノ模様ヲ十分
探索シ然ル後同志ト謀リ皇國ノ為メニ盡力
セントス欲シタルナリ盡力トハ政府ノ兵籍ニ
入リ西郷征討ノ軍ニ従フカ又ハ民撰議院設
立ノ議論ヲ散スルカノ両條ナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

一實ニ民撰議院設立ニ熱心スルヿナレハ其事ノ建白ヲ為ストカ何トカ速ニ着手スヘキ筈ナリ然ルニ先ツ賊軍ノ模様ヲ探リ然ル後民撰議院ノ論ヲ發スル積リナリトハ真ニ熱心スルト云モノニ非ス且ツ民撰議院設立ニ熱心スルヿト賊軍ノ模様テ探偵スルヿトハ更ニ関渉ナキ事柄ニシテ宛モ山ニ登リテ珊瑚樹ヲ求ムト云フモ同様ノ申立ナリトノ御詰問ハ辨解出来カタシ

一先刻同志ト謀リト申立ケタル其同志ノ者ハ立志社員ノヿナリ右社員ハ別ニ自分ヨリ親シク附合モ致サス且姓名モ一々善ク知テサレヒ就中水野扇二郎池添祥陽廣田伸武来原名ハ忘却セリ藤ハ存知タリ等ハ民撰議院ヲ設立シ民権擴張ヲ希望スルノ志自分ト同一ナルナリ

一水野等ハ自分同郷ノ者ユヘ朝夕相往来シ共ニ國事ヲ議スルコトニ民撰議院ヲ設立スルニ非レハ隆治ヲ致ス能ハサルヿヲ語リ合ヒタリ

一民撰議院設立ノヿニ付是迄縣廳其外ニ向テ建言ヲナシタルヿ更ニナシ又其建言ヲナサントト思惟セシヿモナシ其外同志相集テ民撰議院ノ成立等ノヿヲ取調タルヿナク只不平ヲ懐キタルノミナリ

一民撰議院ハ是非設ケサルヘカラサルノ大意ハ板垣副島等ノ建白書ニ詳カナリ自分ハ總

カノ翻譯書位ヲ閲セシ迫ノ了ニテ一向ニ心
得サレ氏先ツ第一ニ君主擅制ヲ改メテ立憲
政体トナシ民撰議院ヲ設立メ事大小トナク
之ヲ公議ニ質シ凡ソ租税國債等ヨリ道路堤
防ノ如キニ至ルマテ民費ニスヘキ事柄官費
ニスヘキ事柄等夫々代議士ヲメ各其意見ヲ
陳述セシメ政府ニ於テ其議ノ至當ナルモノ
ヲ擇ンテ之ヲ行フ件ハ事々皆其當ヲ得テ民
心ニ背戻スル等ノ事ハ地ヲ拂フニ至ラシ是
レ民撰議院ヲ設ケサルヘカラサル所以ノ大
畧ナリ該院ヲ組立ル方法即チ戸數若干ニ付
代議士幾人ヲ出シ或ハ上院下院ヲ設ケ如何
ナル人物ヲ以テ之ニ充ル等ノ事ハ講究イタ
シタルヿナキニ付一向心得タルヿナシ
一自分該院設立ヲ希望セシハ先年士族ノ常職
ヲ解カレシ件ニ始マレリ従来士族ハ其君主
ニ不正ノ事アレハ死ヲ以テ諫ムルノ義務ア
リテ各自ノ君主ニ忠義ヲ尽セハ自ツカラ朝
廷ヘ尽スノ道理ナリシカ平民ニ於テハ此ノ
義務ナカリシナリ然ルニ士族ノ常職ヲ解カシ
ヨリ以来ハ死ヲ以テ諫ル等ノ義務ハ消尽
メ平民同様トナリタルハ遺憾ノ至ニ付此段
ハ何卒此ノ義務ヲ以テ一般ノ人民ニ負荷セ
シメンヿヲ希望シタリ是レ民撰議院設立ニ
熱心セル所以ナリ
一君主ノ我侭ヲナサス規則ヲ立テタル國ヲ立

憲國ト云フト心得タリ立憲國ト民撰議院ト
ハ相適スル者トハ思ヘ𪜈立憲國ニハ必ス民
撰議院ノ設アリヤ否ヤハ心得ス先刻ヨリ民
撰議院ノ事ニ君主專制ノ事ヲ并挙シタルハ
全ク失言ニメ民撰議院ヲ設クレハ必ス君主
專制ヲ止メネハナラヌト云ノ意ニアラス尤
自分ハ共和政治ヲ望ム者ニアラス君主國ニ
メ民撰議院ヲ設ケアルヲ希望セルナリ

一民撰議院ノ事ハ西洋事情專地史畧泰西史鑑
万國史畧等ニ折々散見セル者ヲ閲シタル迄ノ
事ニシテ自分ハ原書ハ讀ヒ得ス又譯書ニテ
モ委敷取調ヘタル事ナシ

一右申立ニ据レハ平生民撰議院ニ熱心シ之カ
為メニ日州行ヲナシタリトハ不都合至極ノ
申立ナリ何ントナラハ實ニ熱心セシ事ナラ
ハ民撰議院ノ事ヲ論セシ訳書モアリ又之ヲ
曉知セシ人モアレハ其書ヲ讀モ其人ニ就テ
專ラ之ヲ研究シ今本邦ニ於テ組立テノ方法
ハ此ノ如クスヘシト豫テ研究シ置カサルヘ
カラサル筈ナリ然ルニ今其細密ノ事ハ勿論
大凡ノ綱領ヲモ知ラスシテ平生熱心スルトハ
何事ソヤ且ツ實ニ熱心スル事ナラハ之ヲ縣
廳又ハ政府ニ建白スルコソ當然ナリ併シ其
建白ヲナスニモセヨ此内國擾乱ノ際政府モ
御多端ノ折柄ナレハ暫ラク差控ユヘキ時ナ
ルニ縁故モナキ日州行ヲシテ民撰議院設立

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 334-1

ヲ尽力スルトハ抑モ如何ナル所存ナルヤ實
ニ不揃至極ノ申立ナリトノ御詰問ハ何分辨
解出来カタシ
一日州行ノ旅費金ハ片岡健吉ヨリ借用セリ最
初藤好静ト日州行ヲ約セシ件旅用金ハ健吉
ヨリ借用スヘシト議定シ好静一人健吉方ヘ
参リ其頼談ニ及ヘリ自分ハ其後金ヲ受取ル件
好静同伴健吉方ヘ至リタリ
一右金借用ノ節好静ヨリ健吉ニ向ヒ如何様談
判ニ及ヒタルカハ知ラス子ヒ自分ニ於テハ全
ク借用金ナルニ付追テ返済スヘキ筋ト心得
タリ
一初メ好静健吉宅ヘ至リ賊軍ノ摸様探索ノ為
メ日向ニ赴キ度旨申入レタル所健吉云賊軍
ニ於テ次テ旅人ヲ入ルヽヘキ譯ナシ此事ハ
思ヒ止マルヘシト其後好静再ヒ健吉方ニ至
リ是非日向ニ赴キ度ト掛合ヒタルニ健吉云
然ラハ行クヘシ我ハ之ヲ止ムルノ権ナシト
其節好静ヨリ金子借用致度旨談セシ所持合
セノ金子アルニ付貸遣スヘシト健吉答ヘタ
ル由追テ好静ヨリ聞ケリ
一其翌日自分并好静両人ニテ金子受取ノ為メ
健吉方ヘ参リ事萬ク禮謝シ旦歸縣ノ
上ハ返済スヘキ旨ヲ述ヘタル所健吉云返済
ノ義ハ心配ニ不及ト故ニ借用証書并ニ受取書等
ハ一切差入レサリシナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

一借用セシ金高ハ百円ナリ百円ヲ一包ニシテアリタリ右金ヲ健吉ヨリ渡セシ件自分共両人ノ内孰レカ之ヲ落手シ旦孰レノ懐中ニ入レシヤ記臆セス夫ヨリ両人同道好静ノ宅ニ歸リ五拾圓宛ニ分チ壹圓以下ノ小札ニテ五拾圓ノ分ハ好静之ヲ懐中シ五圓以上ノ大札ニテ五拾圓ノ分ハ自分之ヲ懐中セリ但シ日向ニ往ク件ノ費用ハ好静懐中セシ金ニテ遣拂ヒ歸途ノ費用ハ自分懐中セシ金ニテ仕拂フタリ

一縣廳ヲ欺テ賊地ニ立入リ其旅費トメ金ヲ貸シ與フルハ人ノ犯罪ヲ助クル者ニシテ後日貸シ主ニモ連坐スヘキハ必然ノコトニ健吉ニ於テハ決シテ貸スマシキ筈ナリ旦又自分共ニ於テモ其恩惠ヲ受ケタル貸主ヲメ後日罪ニ陥ラシムルカ如キハ筈ナリ今借マシキニ借リ又貸スマシキニ貸シタルヲ以テ之ヲ觀レハ其金ハ實ニ子細アル筋ノ金ナルヘシ然レハ其金ヲ健吉ヨリ受取リタル件ハ喜悦満腦ニ溢レタル筈ナリ然ルヲ熟レカ之ヲ落手シタルヤ覺ヘサルトハ決メアルマシキカナリトノ御尋アル旨健吉ノ貸シタルハ他日犯罪發露スル件ハ固ヨリ連坐ヲモ厭ハサルノ心ナリシヤ又ハ某邊ニハ心附スヤ只自分共賊軍ノ景況ヲ目撃シ来ラントノ所存ヲ諒スルト平生ノ交誼アルトヲ以テノカ健吉ノ心中如何アリシヤ自

分ハ心得ス尤自分共ニ於テ縣廳ヲ欺ク等ノ
ヿハ健吉ニ申聞ケス只日向ニ行クヿハミヲ
告ケタリ元来健吉ハ質樸ニメ施ヲ好ムノ性
質ナリ且家禄モ十分ナルユヘ平生夥多ノ書
籍ヲ購求メ書生ニ貸與シ或ハ貧窶ノ者ニハ
金錢ヲ施與スル等ノヿアル故自分共モ其所
ヲ見込ミ金ヲ借リタルヿナリ右金ヲ借リタ
ルトキハ後日健吉ニモ連累ノ恐アル等ノヿハ
更ニ心附カス實ニ喜ニ堪ヘサリシナリ然ル
ヒ其節孰レカ之ヲ落手セシヤ記臆セス尚ホ
熟考ノ上可申上
旅費存外相嵩ミ借用セシ金ハ殆ト遣ヒ切リ
残リタル員數ハ慥ニ覺ヘサレヒ僅ニ二圓許

ナリ右残金ハ健吉ニ返却スヘキ所健吉ハ其
頃西京ニ出テ不在ニ付好静宅ニ差置キタリ
一旅費遣拂ノ書附類ハ無之只舩賃并ニ旅店及
ヒ駕人足ヲ雇ヒシトキ郵便役所ノ受取書四五
枚アルノミ始ノ程ハ手帳ニ控ヘタレヒ其後
ハ面働ヲ厭ヒ認メサリシナリ尤自分ニ於テ
ハ遣ヒ拂フタル分ヲ貰ヒ切ルノ意ナク追テ
返辨スルノ所存ナリシ故ニ詳細ニ記臆スル
ヿヲ怠リタリ
一右金ハ最初借用ノ節自分共云歸縣ノ上返済
スヘシト健吉云返済ノ儀ハ必配ニ及ハスト依
テ自分共ハ貰ヒタルモ同様ニ思ヒタリ併シ自分
共一旦借用ヲ頼ムト云ヒ出セシ上ハ困窮ナ

カラモ追々返済セサルヘカラストノ所存ナリシナリ

一自分ハ東京師範學校ニ於テ卒業シ宮崎縣ニテ小學訓導ニ従事シ歸縣後モ高知縣師範學校ニ奉職シテ月給ヲモ受納セシ故少々ノ貯金有之ニ付歸縣ノ上父ト相談ノ上其金ヲ以テ漸次ニ返済スル積ナリシナリ

一東京師範学校ニ入校セシハ明治七年二月ナリ同校ヨリ小學訓導ノ免許ヲ受ケタルハ明治八年十二月ナリ

一宮崎縣ニ至リシハ明治九年一月ノコトニテ同縣學務課長堤長厳（高鍋ノ人トカ申スコトナリ）ノ紹介ニ因テ彼地ニ行ケリ堤ハ訓導ノ人ヲ周旋スルタメ其節

東京ニ来リ居タルナリ

一自分ト共ニ宮崎ニ赴キシ小學訓導人名ハ小久保某（和歌山縣人）松本ゲツジヨウ（長州人）塚田ヨシ（来名ト申ス人）矢島某（元ト青森縣人当時東京住居）ニメ等ナリ

一宮崎縣ニ着セシハ明治九年一月初旬ナリ尤縣廳下ニハ居ラス同縣出張所ニ行キ明治九年八月下旬比迄滞在シ病氣ニ付辞職メ歸縣セリ

一宮崎縣ヲ發メ後途中ニ於テ該縣慶止ノコトヲ聞ケリ尤歸途十日許熊本ニ逗留セリ

一自分宮崎縣滞在中兼知シタル官員ハ権令福山健偉（薩人トカ申スコトナリ）參事ハ承知セス學務課長堤長厳（高鍋ノ人トカ申コトナリ）大属ワラカヤ某學校長野

215300

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

村綱薩人等ナリ

一高知縣ニ歸リシハ明治九年九月下旬ナリ其年十月九月ノ未ダ憶ニ覚ヘスヨリ本年四月迄高知縣師範學校ニ奉職シ病ニ因テ辞職セリ

一宮崎縣ニテハ月給ニ拾圓ヲ受ケ高知縣ニテハ拾五圓ヲ受ケタリ

右之通相違無御坐候

明治十年八月九日

高知縣士族

村松政克拇印

伊藤博文文書

215900
4
昭和47年10月18日

第四號

明治十年八月六日申立

高知縣士族

村松政克

一自分高知縣師範学校ヲ辞職シタルハ身体弱質且胃弱ニテ日勤ニ堪難キヨリ明治十年四月中辞表差出シ三ケ月目比ニ願ノ通聞届ニナリタリ尤其辞表ハ権令宛ニシテ知已ノ田野内健次ト申ス者ヘ託シ縣廳受付課ヘ出シタリ醫師診斷書ハ別段相添サルナリ右辞表及ハ委數容体ヲ認ムルニハ及ハサル旨ニ付只病氣ニテ勤事能ハサル旨ヲ記載シタリ但医師ハ近頃自分近隣ヘ引移タル生田某ト云者ナリ

国立国会図書館 伊藤博文関係文書

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

一生田云フ自分ノ病ハ胃弱モアリ且天賦弱質
ナルニ付兎角養生セヨトハナラヌト但シ生田
ハ素漢法家ニテ當時ハ洋法ヲ無用セリ
一此度辞表ヲ出ス前ハ頭痛ニテ勤事ヲナスニ
煩シク多クハ二三日四五日モ出勤セサルコト
アリ其時藥剤ヲ貰タルコトアレ共辞職ノ際ハ
別段服藥セス隨意氣侭ニ運動シ滋養物ヲ用
エルカ宜シト医師ヨリ申聞タリ尤三月初旬
ヨリ下旬頃迄ハ頭痛強ク殊ニ悪寒アリテ四
五日位平臥スルコト折々アリタリ併何時同様
ノ藥ヲ服シタルヤ覺ヘス平生多クハ寶丹万
金丹位ヲ用ヒ居レリ全躰自分ノ病氣ハ一時
ノ發症ニ非スシテ従来ノ宿疾ナリ高知縣ニ
一テ訓導ノ命ヲ受タル節ハ大分快ク最早再發
モセサルコトト存シ拝命シタレ共日々世話數
隨意ナラサルニ付九年十一月頃ヨリ再發シ
出勤ヲ断ルコト度々アリタリ
一十年三月ヨリ生田ノ治療ヲ受ケ丸藥ヲ服シ
タリ又別ニ上田(名不覚)ト申ス醫師アリテ同人
ヨリ丸藥水藥ヲ服シタルコトモアリ但上田ノ
宅ハ田淵ト申ス處ニアリ宅ヲ距ルコト一町斗リ
一右田淵ト申ス処ハ自分宅ヲ距ルコト一町斗リ
ナリ其上田ヘ託シタルハ三月ヨリ辞職迫ノ
間ナレ共服藥シタルコトハ尤其際腫物ノ出
来タルコトアリテ菁藥ヲ貰受タルカ其縁故ヨ
リ藥剤モ貰受クルナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

一辞職後ハ服藥セス滋養物ノ為ニ牛肉鷄肉鷄
卵等ヲ食シタルナリ
一自分日州行ノ相談ヲ始メタルハ四月中旬頃
ト覚ヘリ
一高知縣ニテナシタルロ供中ニ唐筆墨高業致
度存立ハ明治十年春頃ヨリ云々トアレハ前
條ニ申立ル四月中旬頃トノ申供ハ時日相違
スル旨御訊問アレ氏右唐筆墨買入云々ハ果
シテ縣官ヘモ申上タルニハ相違ナケレ氏素
ヨリ高法ト申立タルヿヨリシテ詐偽ナル故十
年春ヨリ思立タリト云ヒタルモ矢張虚言ニ
付御取消ヲ願タシ
一京都府ニテナシタルロ供中ニ日向行ノ儀ハ

出立十日モ前ヨリ相談ヲ始メタリトアル旨
御訊問アレ氏確ト覚ヘス其日數ヲ算スレハ
四月廿日頃ニ當ルナレ氏自分ノ考ニテハ四
月中旬頃ト覚エリ尤僅ノ違ニテ何レニセヨ
廿日前後ノヿナルヘシ
一自分病氣ハ一時ノ感冒ニ非ス尚篤ト養
護スヘキ病氣揃ニ付辞職ヲモ致シタルヘキ
筈ナルニ其辞職後十日斗リニテ日州行ヲナ
スハ不審ナリトノ御訊問アレ氏自分病気ハ
只我侭隨意ニ暮シ居レハ心持ヨキヿナルニ
付辞職ヲナシテ起臥自由ニシタル故暫時快
方ニナリタルナリ
一病後間モナクシテ旅行ヲナセハ摂養モ行届

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

カス滋養品トテモ舩中ハ殊ニ乏シク其害モアルヘキ筈ナル旨御訊問アレ𪜈自分病気ハ素ト始終平臥スル程ニハナカリシ故全快スレハ再ヒ奉職スルハ當然ナル𪜈再任スレハ宿疾再感ノ恐モ計リ難ニ付再任ハセス抑モ病氣全快シタル上ハ日數ノ多少ニ均ハラス旅行ヲナスモ差支ハナキヿト思考スルナリ

一辞職ヲモセ子パナラヌ程ノ病氣カ僅カニ週間モ過キスシテ危險ヲ越テ旅行スル様強壯ニ至ルトハアルヘカラサルノ道理ニ似タレ𪜈自分ニ於テハ病気全快シタル故日州ヘ参リタルニハ相違ナシ尤弱体ニ付旅行ヲナスハ屹度宜シキヿトノ思量ハナカリシナリ

一辞職聞届ニナリタル頃ハ既ニ全快シタル旨申立レ𪜈其日數ヲ計算スレハ辞表ヲ出シタルハ四月廿八日ニテ其聞届ニナリタルハ四月三十日ノヿナレハ僅カ三日間ニ全快シタルナルヘシ辞職スル程ノ病氣カ左様速ニ快復セシヤト御訊問アレ𪜈自分ノ病ハ三日間ニ全快シタルニ相違ナキナリ

一唯今自分ノ病ハ三日間ニ全快シタル旨怒ヲ含ミ声高ク申立タレ𪜈自分辞職シタル所以ヲ改テ今一度左ニ申供致シタキナリ

一最初日向ニ於テ辞職シタルモ胃弱症ヨリノヿナリ夫ヨリ歸縣ノ途中又病症差重リ熊本

ニテ十日程滞留シ精々養療少快ヲ得タル
ニ付歸縣シ全快ノ折柄幾許モナクシテ縣廳
ヨリ訓導ヲ拝命シタヲ以テ右ノ如ク數歳常ナキ
病疵ナリ尤從来ノ持病ノ全快ト申スヿハナ
クテ今持病ハアルナリ殊ニ高知縣ハ小學教
科ノヿモ未タ盛大ニ至ラス且教員モ人少ニ
付成丈ケ奉職致呉ヘキ旨高知縣学務課ヨリ
申聞モアリタルニ付自分病気全快ハ計ラレ
サレ共當時ノ処先ツ全快ノ上奉職シタルニ付
命シタルナリ右様快気ノ上奉職シタルニ付
家族ノ者モ大ニ喜ヒテ最早胃弱ノ根モ絶ヘ
タルヿト存居タル処又々明治九年十月ヨリ
十一月ヘ懸ケ數病セリ其後モ二三日或ハ四五
日位宛引込タルヿ度々アリタルカ就中本年
三月初旬頃ヨリハ病氣一層甚シク出勤出来
サルヿ度々アリタルニ付此ク不勤多テハ朝
廷ヘ對シ恐入次第ニ付不得止辞職ト決心シ
辞表ヲ出シタルナリ依テ今般モ辞職スルヤ
否直ニ全快シタルナレ共其病根ニ於テハ今
ニ愈サル次第ニテ唯一時快方ニナリタルニ
付日州ヘハ帰リタルナリ故ニ旅行ヲナスハ
学校ヘ出勤スルヨリ余程其害アルヘシトノ
御訊問アレ共必シモ此行ヲナシタレハ迎健
康ヲ害シ一命モ危カルヘキ林トノ遠慮ニナ
ク旅行ハ却テ運動ニモナルヘクト存シ日向
ヘ出立シタルナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

一日州行ヲ父彦蔵ニ謀リタル節自分以為ク縣
廳ヲ欺キタル同様ニ高法ヲナス為メ出立ス
ヘシト父ヘ申聞ルニ自分高法ノ出来サル
ヿハ父ニ於テ素ヨリ承知ニ居ルニ付迚モ許
スマシト依テ父ニ暇ヲ請テ云今般西南ノ動乱ニ
付テハ路説紛々一モ確定ノヿ分ラサルニ付
九州ヘ渡リ其模様ヲ探索致シ度併シ危険ノ
処ヘ踏入ル様ノヿハセサルニ付其段ハ安心
アリシ九州地方ニ渡リタレハ縦令路頭ノ
風説ヲ聞ヲテモ此地ニ於ヨリハ慥ナルヘキ
ニ付是非希リタシト於是父彦蔵承諾致シタ
リ
一自分ハ両親アリ又妹アリ右妹「カメ」ハ藤好静
兄為濤ノ妻ナリ
一自分又ニ告云右旅行入費ハ片岡健吉ヨリ借用シテ行クニ付必心配ニ及ハスト父云其方ノ存意次第何レニスヘシ併シ戦地ニ至ルハ勿論縦令戦地ニ非スニモ九州地方ハ方今動揺中ニ付甚心配スルナリ併シ十四五日カ廿日位ニテ皈ルナレハ行クモヨカルヘシト
一日向并高知ノ學校ニ奉職中ノ月給ヨリ少々宛貯ヘシ金凡百圓斗リモアリタリ右ハ別段改メテ父ヘ預ケルト申セシ訳ニモ非ス此ク貯金アルニ付入用ノ節ハ何時モ御遣ナサレト申シ父ヘ渡シ置キタルナリ
一右金ハ貸付ニモセス只宿元ニ仕舞置キテア

ルナリ

一右様入用ノ節ハ何時モ御遣ナサルヘシト申シ渡シ置タ金ナリ且自分モ是迄久シク他行ノミニテ自分家ニハ幾許ノ貯金アルヤ又幾許ノ借財アルヤモ知ラサルユヘ右百円ノ金ヲ今般自分カ旅用ニ費シテハ父ノ機嫌ヲ取フモ難斗ニ付幸ヒ建吉ヨリ貸呉レルトノ事ユヘ借用致シタリ自分帰リノ上ハ右貯金ヲ以テ辨償スヘキヤ其辺ノ処迫ハ心付サレ度若日州ヨリ歸リシ上ハ同郷ノ子供ナリトモ教育シテ右借金位ハ弁シラレルトノ心得テ居タリシナリ又萬一目的モ相違セシ時ハ右父ヘ渡シ置タル金ヲ以テ返付スヘキ心得モアリタリ何レニシテモ建吉ヨリ借用スル節追々ニ返却スヘキ約定ナルニ付一身ヲ以テ金策ヲ付ル積リニテアリシナリ

一出立ノ届ハ區長宛ニテ父彦藏ヨリ區務所ヘ差出タリ其文面確ト覚エサレ度大畧左ノ如シ

一私長男政克儀此度高用ニ付長崎表ヘ罷越候ニ付御聞届被下度云々

一右ノ届書ハ自分認メ調印ハ父彦藏自ラ捺セシナリ尤縣廳ヘハ別ニ届ケサルナリ

一自分是迄ノ申立ハ兎角曖昧ニテ都合ノ合フ斗リナリト御詰責アレ度自分ニ於テハ既ニ縣廳ヲ欺キ禁令ヲ犯シ賊地ヘ至リシハ

215300
5

最早京都府以来御糺ニナリ明白ナルヿナレ
ハ其罪ノ軽カラサルハ萬々心得居ルニ付今
日ニ至リ決シテ包蔵ハセサルナリ
一前條ニ於テ既ニ包蔵セサル自申供シ居リナ
カラ其顔前ニテ不揃ノ申立テナスハ又届ノ
至ナリ如何トナレハ最初父彦藏ニ告ルニハ
九州地方探偵云々ノヿト申立今又區務所ヘ
出シタル父彦藏自カラ捺印セシ届書ニハ高
用ノ為メ長崎ヘ罷越云々トアレハ一事両岐
ノ申立ニシテ畢竟父子共々縣廳ヲ欺キタル
ヿニ相違ナカルヘシト御詰問アレ𪜈其節自
分以為ク九州中長崎ハ第一ノ遠地ニ付長崎
ヘ高用ノ為メ參ルト申立置ケハ万一途中ヨ
リ立帰ルヿアルモ縣廳ヘノ申訳ハ立ツヘシ
ト依テ父エモ其段相迫リタルニ付父モ心付
ス印ヲ捺シタル迫ニテ父彦藏ニ於テ縣廳ヲ
欺クトハ決シテ不存ヿニ付父ニ於テ罪ハ更ニ
ナキヿニ付其段ハ宥恕ヲ乞タキナリ
一日州行ニ付最初父ニ申出シハ長崎ヘ高法ノ
為メリタシト然ルニ父ニ於テ長崎ヘ高用ニ
至ルトモ十分ノ事ハ出来マシキニ付夫ハ止ム
ヘシト言ハレシヿヲ憚リ又重テ云今般ノ事
件ニ付路頭ノ風説ナリトモ聞キタキ故探偵旁
為メリタルニ積リナリト是父ニ暇ヲ貰ノ節ノ實際ナ
リシ
右之通相違無御坐候

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

215900
5
昭和25年10月18日

第五號

明治十年八月八日申立

高知縣士族

村松政克

一日州行ノ事ヲ隠匿シ高業ノ為メ長崎ニ赴ク旨ノ届書ヲ父彦藏ヨリ縣廳ニ出サセタル手續ハ最初自分ヨリ父ニ告テ云今般唐筆墨買入ノ為メ長崎ニ赴キ其序ニ戦争ノ模様ヲモ目撃シ来リ度ト是レ父ヲモ欺キタルナリ父ハ六十歳有餘ノ老人ナルユヘ平生諸事自分ニ依頼シ居ルヿ故自分カ發言セシヿハ何事ニヨラス聴從スルナリ故ニ長崎行ノヿモ別段巨細ノ取糺モナサスシテ速ニ承諾シ父云永クカヽルヿナレハ止メ子ハナラヌナレ氏

明治十年八月十三日

高知縣士族

村松政克拇印

暫時ノヿナラハ往クヘシト依テ自分云高用
并ニ旅費等ノ金ハ藤好静ト共ニ周施シテ片
岡健吉ヨリ金百円餘ヲ借用セリト
一家産ヲ創立スルハ容易ノヿニ非サルモノナ
レハ前後ヲ熟慮シ而後決定スヘキ事ナリ然
ルニ是迄高業等致シタルヿ更ニ之無キ自分
カ突然ト高業ヲ始メシト云シヲ父彦藏ニ於
テ一事ノ疑問モナク之ヲ許可スルノ理ナク
其上今戰争最中ノ地方ニ赴カント云シナレ
ハ父ニ於テハ身既ニ老衰シ諸事自分ニ依頼
シ杖柱トモ思フ一子カ頃日病漸ク愈テ稍々
安心ノ折柄又々身命モ危キ塲ニ踏込マント
ノヿヲ夫ハヨカロウト輙スク承諾スルトハ

柳人間ノ情ニ於テアルマシク且鳥獸ト虽只
親ノ子ヲ思フノ情ハ多少アルモノナレハ父
彦藏ニ於テ自分ノ戰地ニ往クヲ止メサルノ
道理ナク縱令止メサルモ委細縷々痴情ラシ
キヿ迄モ調ヘテ能クヽヽノ子細有テ後ニ非サ
レハ之ヲ許シテ遣ルヘキニ非ス且ツ去ル六
日ノ申立ニハ縣廳ニ向ヒ詐偽ノ届ヲナシタ
ルハ父モ承知ノヿナリト云ヒ父今日ノ申立
ハ之ニ反スルハ不都合ナリトノ御詰問ヲ受
ケ恐縮ノ至ナレ𪜈實ハ縣廳ヲ欺クヿハ決テ
父ニハ申聞ケス全ク父ヲモ欺キタルニ相違
ナシ尤父カ止メモセス又委細聞糺モセサリ
シハ如何ノ所存ナリシヤ自分ハ心得サレ𪜈

父ハ只一途ニ自分ノ言ヲ信セシ者ト推考セリ

一縣地出發ノ前日藤好静ノ宅ニ於テ池添祥陽（二十歳位ナリ）水野帋ニ郎（二十二三歳位ナリ）ニ面會シ右両人ハ入魂ノ人故日州行ノヿヲ自分ヨリ談話セリ其節右両人云夫ハ善キ思立ナリ吾々モ赴キ度ト思フ程ナリ疾ク御皈リヲ待ツト自分等カ探索ニ行クヿハ極同意ス様子ナリシ尤両人ニ縣廳ヲ欺キタルヿ并ニ民撰議院設立ノ目的ニ付テ赴ク等ノヿハ語ヲサリシナリ

一出立前池田應助ニモ面會セリ然レ𪜈日州行ノヿハ告ケサリシナリ

一三浦分雄カ渡シタル賊地道按内ノ書付ヲ應助ヨリ自分ニ渡シタル旨京都ニ於テモ御尋アレ𪜈自分ハ決メ之ヲ受取リタル覚ナシ併シ好静カ受取リシヤ否ヤハ知ラス

一四月卅日（日ハ慥ニ覚ヘス）浦戸港ハラミト申ス所（高知ヨリ壹里弱ナリ）ニテ川蒸氣舩（舩名知ラス）ニ乗組シタリシカ風雨ニテ出帆セス其夜ハ船中ニ一泊シ翌五月一日ニ至リ一旦歸宅シ五月二日再ヒ乗船セリ

一五月三日（日ハ慥ニ覚ヘス）朝蟠多郡下田港ニ着シ上陸メタ刻宿毛ニ至リタリ折節失（天）気宜カラスメ出船ナリ難ニ付五月六日七日ノ比マテ此ノ所ニ逗留セリ

一下田ヨリ上陸セシ𪜈シメジト申ス者（東京ニテ巡査）

ヲ奉職シタリシカ辞職メ帰郷スル途中ノ由ト同道シタリ右シメジノ周旋ニテ宿毛ノ旅店ニ投宿セリ其節シメジト同宿ハシタレ圧座敷ハ隔タリタリ

一五月五日六日ノ頃舩珊瑚樹ヲ取ル船ニヲ雇フテ沖ノ島ニ赴キタリ其舟中舟子ニ向ヒ此ノ舩ヲ以テ直クニ日向地方ニ渡航致呉レカト掛合ヒタレハ舟子之ヲ肯セス

一五月六日七日頃沖ノ島ニ着シタリ抑此島ニ渡リタルハ三浦ニ依頼メ舩ヲ雇ハンカ為メナルニ付直チニ三浦家ヲ訪ヒ介雄カ父則優ニ面會シ舩ノ周旋ヲ依頼セシニ則優頗ル自分共ヲ疑フ色アリタリ少頃クシテ則優外出シテ戸長ニ届タル様子ナリ歸リテ云フ自分ノカニテハ舩ノ周旋出来カタキニヨリ戸長ニ依頼セヨト是ニ於テ自分共戸長ノ宅ニ至リ自分ガ所持ノ旅行届書ヲ示シテ頼談セシニ戸長之ヲ承諾シ漁舩ヲ雇ヒ呉タリ尤其夜ハ戸長宅ニ一宿セリ

一五月八日朝沖ノ島出舩其夕刻豊後大島ニ着セリ

一四月廿日比介雄カ沖ノ島ニ歸リタル風聞ノ世上ニ流傳セシ時分ニ三浦カ沖ノ島ニ住スルト云フヲ承知セリ尤最初其風聞ハ鄰家山崎頻三年齢ニ十五六ナリ立志社員ニアラスヨリ傳聞セリ

一鹿児島旧縣令大山上京ニ付介雄ハ同縣中属ナルカ同人ニ面會致度トテ先ツ四國ニ渡リタル所愛媛縣ニテ介雄ハ捕縛セラレタリ

シカ同縣条事トカニ懇意ノ者アリテ其者ノ尽
カニ因テ放免セラレタリ其節介雄ハ大山カ
既ニ縛ニ就キタルヲ愛媛縣条事ヨリ承知シ
直ニ鹿児島ニ帰ラント思タレ𪜈此ノ所マテ
来リテ帰省セサルハ遺憾ナリトテ一旦郷里
ニ立帰リ其後鹿児島トカ京都トカニ出發セ
リト風聞ニテ承知セリ

一介雄ハ高知ニハ来ラス併シ万一来リシヤハ
計リカタケレ𪜈自分ハ更ニ承知セス介雄カ
沖ノ島ニ来リシヿノ流傳セシ原因ヲ自分想
像スルニ幡多郡宿宅(毛)ニ旧勤王社アリ社長ノ姓名ハ
知ラス此ノ社員カ介雄ニ面會セシカ又ハ介雄
カ出發ノ後右社員カ則優ヨリ傳聞セシカノ

事ヨリ起リタルナラント

一高知ヨリ宿毛ヘ三十五六里ナリ宿毛ヨリ沖
ノ島ヘハ五六里ナリ高知ヨリ沖ノ島迄ハ四
十里強ナリ沖ノ島ヨリ豊後大島迄ハ直徑三
十里程ナリ

一自分ヨリ則優ニ頼談ノ次第ハ先日介雄君帰
宅セラレシ由承知セリ自分共モ此度日州ニ
至リ度所存ナルカ船ヲ雇フノ手都合不案内
ナル故介雄君カ日州ヨリ往来サレル𪜈ノ手
順ニ依リ御周旋被下度ト申入レタリ

一自分ヨリ介雄カ日州ニテ往来セシ手續ヲ問
ヒシニ則優答ヘテ云介雄ハ高知ヨリ蒸気船
ニテ大坂ニ赴キ大坂ヨリ長崎ニ至リシト然

レハ分雄ハ高知ニテモ奈リタル様ナレ𪜈其節
自分甚之ニ怪シミタリ
一其節自分共乗組ミタル舩ノ舩頭ハ曩ニ分雄
カ日州ニ還リシ𪜈之ヲ乗セ送リタル者ナリ
是ニ至テ則優カ分雄ハ蒸氣舩ニテ大阪ニ赴
キタリ云々ノ果メ信ナラサリシヲ知レリ
一三浦ハ頗ル豪家ニメ往古ハ沖ノ島全島ヲ領
シタリシカ當今ニテモ猶ヲ其半ヲ所有セル
由ニテ三浦カ住居ノ地ハ廣瀬ト云フ所ナリ
此所ハ戸數百軒程アルナリ
一沖ノ島ニハ飲食店ナキニ付三浦カ宅ニテ朝
飯ヲ乞ヒ草鞋カケニテ座ニモ上ラス喫シタ
リ

一自分共則優ニ向テ云今般自分等日州ニ至リ
シ上ハ多分分雄君ニ面會スル績ナル故御書
状モアラハ達スヘシト依テ則優ヨリ一封ノ
書翰ヲ托シタリ
一自分等日州ニ衍キタラハ分雄ハ同縣人ノコ
ユヘ先ツ之ニ面會セハ賊軍ノ模様十分分ルヘシ
ト思考セリ初ヨリ桐野ニ面會スル積リハナシ尤分雄
カ日向カ鹿児島ニ在ルコハ世上ノ流傳ニテ
承知セリ其流傳ハ分雄カ帰郷セシ𪜈分雄宿
宅邊ノ者ニ語テ云拙者カ是ヨリ鹿児島ニ至
リ戰地ヲ往来メ周旋スル積リナリトノ事ナリ
自分此事ヲ聞キ分雄ハ賊徒ト一味ノ者ト想
像セリ但シ自分其事ヲ小山茂平太（二十五六歳位ナリ）

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

215900
6

德永秀實（二十二三歳位ナリ）野崎某（名ハ忘レタリ）桒原某（名ハ忘レタリ）水野虎二郎池添祥陽弘田伸武等ノ内ヨリ承知セリ

一自分ハ三浦分雄ニ面會セシヿナシ

一分雄ハ賊ト一味ノ者ニテ近日高知ニ至リ其事情ヲ探索セシ者ナレハ高知人ハ朝廷ニ忠節ヲ尽ス者ニシテ決メ賊徒ニ與ミスル者ニアラサルヿヲ探リ得テ如何トモスヘカラスト大ニ慍リヲ含テ日向表ニ立還リシモノナラシ然レハ賊地ニ於テ自分等万一分雄ニ出合ノヿアレハ分雄必ス云ハン此者等ハ高知人ニシテ官軍方ノ者ニテ聞者ナリト而シテ自分等ヲ縛スルハ必然ナレハ自分ガ深ク分雄ヲ避クヘキ筈ナルニ却テ之ニ面會ヲ求ルトハ不審ナリ自分等モ分雄一味同腹ナレハ前后申立都合ヨケレ𪜈左ナクテハ不都合ノ次第ナリト御詰問アレ𪜈仮令分雄カ高知ニ来リタルニモセヨ僅ノ日數ナレハ十分探索ハ出来サルヿユヘ自分共カ賊徒ニ與ミスル者ニ非ルヤ否ヤハ分雄ニ於テ承知セサルヿト思考セシナリ

右之通相違無御坐候

高知縣士族

村松政克拇印

明治十年八月十三日

215900
6
昭和25年10月18日

第六號

明治十年八月九日申立

高知縣士族

村松政克

一三浦分雄ハ高知縣ヘ来リタルニ付縣下ノ事情ハ十分探偵シ立還リ居ルヘク然ルニ其分雄ヲ頼ミニシテ賊地内ヘ無事ニ至レルノ故ナシト昨日御詰問アリタレ𪜈自分ハ左迄心付ス只世間ノ談話ヲ聞ケハ分雄ハ両三日カ四五日位沖ノ島ヘ帰リ居タリト「スクモ」辺ノ者一両名話シタリトノヿニ付定メテ両三日ニテ立去リタルヿト信シ居タリ又分雄ハ阪地ニテ捕縛ニナリタル鹿児島旧縣令大山ニ要用アリテ糸リタリトノヿニ付素ヨリ高知

国立国会図書館　伊藤博文関係文書(その1)書類の部 334-1

縣ノ探索ヲ專務トシ高知旧城下迄ニ来ル訳ナク且分雄賊一味ノ者ユヘ旧城下ニテハ捕縛ノ恐レモアルヘク夫故僅カノ日數ニテ立還タルコトナラントト思量セリ又一圖ニ高知縣下探偵ノ為メ来リタルコトナレハ危險ヲ侵シテモ立還ルヘキ筈ナレ𪜈全ク大山ニ要用アリテ来リタルガ既ニ大山ハ捕縛ニナリタリト聞タルニ付左スレハ幸ヒ郷里ノコトユヘ歸着スヘクトノコトニテ来リタル趣ニ付最初ヨリ縣下ノ事情探偵ノ為メ来リタルニ非サルコト自分ハ推察セリ右ノ次第故分雄カ高知縣ノコトヲ十分探索シ居タルコトハ思ヒ寄ラサリシナリ

一分雄ハ賊徒同意ノ者ト自分ハ見認タリ其訳ハ高知縣ニテ分雄ノ話ニ自分ハ鹿児島縣ノ中屬ヲ奉職シ居レ𪜈矢張戰爭ノ地ヘモ往復シテ双方（鹿児島ト戰地トノ両場所）ノ為尽カシ居ルト云タル趣ヲ承知セシ故即チ賊ト同意ノモノト推察シタリ但シ右ノコトヲ聞タルハ惜ニ堪エサレ𪜈昨日申立シ人名ノ内最初山崎慎三ヨリ承リ其後餘人ヨリモ四月廿日頃承知シタルナリ

一縣令タル大山既ニ賊ニシテ捕縛ニナリタル位ナレハ其以下ノ縣官ハ固ヨリ既ニ賊トナリタル者ト自分ハ心得居タルナリ

一右様既ニ賊ニ一味セル分雄ノ高知ヘ来リシ

ヿヲ聞ナカラ朝廷ヲ遵奉スル自分等ニ於テ
之ヲ縣廳ヘ届モナサス又捕縛モセサルノミ
ナラス其賊タル分雄ヲ便リテ日向行ヲナス
トハ不審至極ナリトテ御糺問アレ𪜈届ヲセサ
ルハ全ク自分等ノ落度ナリ併シ自分ニ於テ
ハ其分雄カ高知縣ニ来リ既ニ立去リタリト
聞タルハ四月廿日頃ニテ矢張最初ノ山崎ヶ
ヨリ承リタル迄ニテ自分ニ於テ別ニ関係ハ
ナキヿト思考セリ又分雄ニ面會セシハ誰ナ
ルヤモ承知セサリシヿナリ
一分雄ノ高知縣ニ来リタルヲ右山崎等ヨリ追
々傳承シテ之レヲ其筋ヘ届ケサルハ自分ニ
於テモ其罪免カルヘカラサレ𪜈其節ニ在テ

ハ更ニ心付スシテ聞流シタルコトナリ
一自分等日向ニ至ルニ分雄ヲ便リテ行ク所以
ノモノハ賊地ニ至ルニ直接ニ探索ヲ名トス
レハ危難モ計リ難キニ付幸ヒ分雄ハ同縣ノ
者故右分雄ヲ名指シタレハ仮令賊地ニテモ
徒ラニ縛セラルヿモアルマシク全ク賊ニ荷
擔スルノ心ヲ見セタルナラハ必ス疑ハレテ虜
ニナルヿモアルマシクト考ヘタルヨリ分雄
ヲ便リタルナリ但シ最初ヨリ桐野ニ逢ハシ
トシテ出タル訳ニ非ス
一分雄ハ左迄高知縣ノ探偵ヲナス為メ来タリ
居タル者トモ心得サリシナリ
一自分等日州ニ至リテ賊ト面會シタル節ニハ

介雄ト我々ハ素ヨリ同服ナル上ヘ即チ介雄ノ父則優カ手紙迄モ持参シタリト申シ一時賊ヲ欺カントテ存シタリ併シ實ハ介雄カ高知縣ヘ来リタル節真ニ介雄ト同腹ニテ約束ヲナシタルニ非ス且高知縣ニ於テ外ニ西郷オヘ荷擔シテ尽力スル人ヲハ自分承知セサルナリ

一三浦ノ賊タルヲ知リナカラ沖ノ島ニ至リシハ他ニ非ス日向ヘ渡ル船ノ周旋ヲ則優ヘ依頼ノ為メ又手紙ヲ取リタルハ賊地ニ入タル節申開キノ為メ且ハ介雄ニ面會シタレハ親ノ消息ヲ達シ遣ス深切ノ積リナリ尤仮令戰地ニテ介雄ニ面會セサルモ自分同縣人ノコ

テ介雄ハ能ク知リ居ル者ナリト云ヘハ都合モ宜シキコト心得タルナリ

一沖ノ島ニ至リ則優ヨリ手紙ヲ持参スル次第ハ郷里ノ出立ノ節ヨリ自分ト藤好静ト話合タルナリ尤沖ノ島トコロ「スクモ」トハ里數二里餘モ隔タリ居ルニ付若コ「スクモ」ヨリ舩便ノ都合ヨケレハ必シモ沖ノ島ヘ立寄リ則優カ手紙ヲ取ラストモ「スクモ」ヨリ直ク日向地ニ渡ルヘシト途中ニテ好静ト申合タルコトモアルナリ

右之通相違無御座候

高知縣士族

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

215900
ク
昭和 3年10月18日

第七号

明治十年八月廿二日申立

高知縣士族

村松政克

一自分日向ニ赴ク時沖ノ島ニテ雇ヒタル船ハ漁船（船名及船主ハ知ラス）ニシテ船頭三人乗組シタリ（船頭ノ名ハ覚ヘサレ氏一人ノ頭立チタル者ハ長二郎トカ云ヘリ）其内一人ハ三浦介雄カ日向ニ往ク時之ヲ乗セ送リタル者ナリ船賃ハ拾圓ナリ右ハ藤好静カ懐中金ニテ拂ヒシト覚ヘタリ

一五月七八日ノ頃沖ノ島ヲ發シ即日豊後ノ大島ニ着シ船頭ノ周旋ニテ曩ニ介雄カ泊リタル家ニ投宿シ雨天ニ付両日程逗留セリ

一大島ニテ又漁船（船名及ヒ船頭ノ名覚ヘス）ヲ雇ヒ五月九

明治十年八月十三日

村松政克拇印

日頃出帆シ其夜ハ船中一泊十一二日ノ頃延岡ノ島ノ浦ト云ヘル一孤島ニ著シ上陸シテ一宿セリ右船賃ハ六圓ナリ島ノ浦ヨリ延岡迄ハ海路僅ニ五里計リテ隔テシ処ナレ𪜈船頭船路ニ熟セサルニ付延岡ニ達スルヿ能ハサリシナリ

一島ノ浦ニテ又小舟ヲ雇ヒ十二日（日ハ確ト覚ヘス）午後一二時頃延岡ニ着セリ右船賃ハ五拾錢計ナリ

一延岡ニ於テ船頭ノ手引ヲ以テ區長役場ニ至リ（役場ハ市中ニアリタリ）區長柴田（名ハ知ラス）ニ面會シ自分云拙者共ハ高知人ナルカ三浦分雄ニ要用アリテ来リタリ何分土地不案内ユヘ御周旋被下タシト其時區長打解チテ物語ヲナシ且云三浦ハ當時何レノ所ニアルヤ分明ナラヌト自分云然ラハ桐野ニ面會致シタシト區長云桐野モ居所分明ナラス尤竹用（田）ニ派出ノ兵幸ニ今當地ニ宿陣セルニ付其参謀ニ面會シテハ如何ト自分云然ラハ参謀ニ逢フヘシト右談話畢リテ午後二三時頃旅宿ニ至リタリ（小間物店ニメ屋号名前ハ覚ヘス）右旅宿ノ周旋ハ區長ヨリ發言セシニ付自分之ヲ依頼セシカ區長直ニ小使ニ命シテ手配ヲナシタリ

一延岡ハ既ニ賊ノ所有ニ帰シタルカ又尚ホ官軍ノ所有ナルカヲ島ノ浦ニテ船頭ニ問タレ𪜈分明ナラサリシカ延岡ニ上陸後途中数多

ノ薩兵ニ出逢ヒ旦橋畔ニ梟首アリシヲ見テ
既ニ延岡ハ賊地トナリタルヲ知レリ右梟首
ハ肥後人某有栖川宮ノ内命ヲ奉シ探索トシ
テ該地ニ来リシヨリ刑ニ処シタル旨掲示ア
リタリ
一官軍ノ探索者ヲ止宿スルヤ賊軍ヨリ厳刑
ヲ受ルヿハ區長モ熟知ノコトユヘ區長ハ大ニ
自分共ヲ怪ミ旅宿ノヿ等ハ決シテ取合間敷
答ナルニ如何ナル譯カ自分共カ高知人ナル
ヿヲ聞クヤ區長大ニ喜ヒ自分等カ誰某ノ命
ヲ受ケテ来リタルヤ等ヲ尋問ニモ及ハス直
ニ語テ云頃日薩軍大ニ急迫ナルニヨリ日夜
高知ノ連ニ事ヲ擧ルヲ企望セリ今高知ノ景
況ハ如何ト自分共答テ云急連事ヲ挙ルヿハ
出来サレヒ早晩斃スル見込ナリ。其事ニ付自
分共ハ三浦又ハ桐野ニ面談致度事件アリテ
来リタリト然ル処區長ハ善ク三浦ノ事ヲ知
リタルニヤ直ニ答テ云三浦ハ當地ニハ居
ス多分鹿児島カ又ハ人吉ノ都合ヲ今ヨリ追懐スレヒ區長ニ於テ自分
共ヲ怪マサルヲ得サル節ナレヒ全ク高知ハ
必ス薩軍ト共ニ事ヲ挙ルヘシト信シテ更ニ
疑ヲ懐キナカラ
疑ハサリシ故放又ハ區長モ
後場ニ於テノ應接ナルユヘ態キト
ヲ敲言セサリシカ或ハ怪キ者来リシニヨリ
不取敢止宿致サセ置キタリト薩軍ニ届ル心

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

得ニテアリシ欤兎角自分共ヲ巨細ニ取糺サヾリシナリ尤自分共ハ立志社其外何レノ社ヨリ来リタリトハ決メ云ハサリシハ固ヨリ何レノ社ヨリモ命ヲ受ケタルニ非レハナリ

一區長ハ豫テ高知カ事ヲ挙ルニ相違ナシト思込ミシ者ト見ヘタリ其事ハ何レヨリ聞込ミタルヤ知ラサレトモ高知ノ師穂ナラサルコトハ色々新聞紙ニモ記載アリシユヘ其説ニ擾テ高知カ事ヲ挙ルコヲ信シタルナラン

一自分共親シク見タル通リ探索者ハ直ニ集首スル程賊軍ニ於テ苛酷厳密ナリ然レハ其探索者ヲ客ルヽ者モ亦賊ニ於テ酷罰スヘキヲ

ハ區長素ヨリ之ヲ承知スヘシ然ルニ自分共カ高知縣ノ誰ノ使ナルヤモ問ハス高知人ナリト云ヲ聞テ即チ款待シテ下宿近モ周旋シ又高知ノ挙兵ヲ渇望スル等ノ大事ナル言ヲ敲スル譯ナル豫テ賊ト牒シ合セタルコトアルカ又自分共區長ニ面會ノ節高知縣誰レノ命何社ノ使トカ區長ニ於テ確信シテ疑ヲ容レサルヘキ對談アリタルヘシ然ラサレハ事理ニ於テ有ヘカラサル不都合至極ノ事柄ナリトノ御詰問ニ對シ其辨解ハ出来サルナリ

一區長ト談話既ニ畢リ旅宿ニ至リ喫飯メ休息シタリシカタ刻區長来テ桐野ニ御面會ノコヲ薩軍ニ申通シタル処野村某（参謀トカヲ勤ル者）

215900
8
昭和37年10月15日

明治十年八月廿三日申立　高知縣士族
村松政克

一昨日申立タル自分カ野村ノ旅宿ニ至リタル
八五月十二日ヾヿニテ區長ヨリノ指圖ニ隨
ヒ旅亭ノ主人ト同道參リタリ尤其節區長榮
田ハ參ラサリシナリ
一五月十二日晩景野村ノ旅宿ニ至リ野村ニ面
會シ自分共ヨリ此地ニ来リタル仔細ヲ陳述
セリ其節ハ野村一人ナリシカ談話ノ央頃市
来某名知ラス来リタリ自分云我々両人當地ヘ
来リシ訳ハ他ニ非ス今度鹿児島縣ニ於テ事
ヲ起サントタルハ實ニ尤ノ次第ナリ我々モ亦

一應面會可致旨申聞ケタリト乃チ自分旅宿
ノ主人ニ按内ヲ命シ野村ノ旅館ニ至リタリ
右ノ通相違無御坐候
明治十年八月廿五日　高知縣士族
村松政克拇印

伊藤博文文書

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

當時政府ノナス処ヲ見ルニ尽ク是トスルニ
非ス隨分不平ノコトアルナリ今高知ノ景況ニ
於テハ我輩同志モアリ又縱令同志ニ非サル
モ事ヲ起ス日ニハ過半ハ一致シテ藏兒島ト
共ニ事ヲナスヘキ積リナリ併シ今日迄因循
シ事ヲ愛セサルハ甚恥入次第ナリ尤其因循
セシ所以ハ聊原因アリテ然ルナリ其原因ハ
高知縣ニ於テハ鹿兒島縣ニ於テ事ヲ起シタ
ル如ク縣令始ユ致シ國内挙テ事ヲナス能ハ
ス高知縣令ハ勿論外ニモ政府ヲ助クルノ黨
アリテ其妨害ヲスルユヘ不得止意ノ如ク人
氣ヲ纏メ急速事ヲ挙ルニハ至ラス無シナリ併
シ今高知一般ノ景況ハ旗ヲ揚ル者一人アレ

ハ総テ響ノ如ク應スル勢ナレ𪜈或ハ因循シ
テ機會未タ来ラストカ或ハ人氣一和セストカ
云者モアリ我々ニ於テ之ヲ坐視スルニ
忍ヒス且ツ今日高知ニテ事ヲナセハ聊鹿兒
島ノ勢援ニモナルヘキニ付兵ヲ挙ルノ方法
ハ如何スレハ都合ヨロシキヤ是非其事ノ成
就スルヲ希フノ等ノ示談ヲトル桐野ニナシ桐野ノ見
込ヲ篤ト承知シテ歸縣スルハ是迄ノ因循者
ヲ鼓舞シテ周旋ヲナスヘキ心得ニテ我々糸
リタルナリト而シテ野村云御尤ナリト野村
ヨリ高知人ニテ陸軍士官ヲ勤メ居ル者二三
名ヲ尋子タルニ付自分共ヨリ何某ハ奉職シ
何某ハ云々ト若ヘ續テ自分野村ニ謂テ云フ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

右ノ訳ナルニ付是非桐野ニ面會ヲ乞度シ併シ道路モ不案内ノヿユヘ其周旋ヲナシタレヨト野村市来云御尤ノヿユヘ桐野ヘ面會アルヘシ桐野ハ江代ニ居ルニ付夫迄兵隊ノ者ヲ出シテ足下等ノ先導ヲナサシムヘシ就テハ明朝ニテモ何時ニテモ足下方ノ都合ヨロシキ時出立アルヘシトノヿニ付其納諾ヲナシ午後ハ時頃歸宿寢ニ就キタリ右ハ順序前後スル処アルヤモ難計ナレ𪜈事實ハ相違ナキナリ

一午後九時頃再ヒ野村ヨリ使者来リ云我々両人ノ内誰ソ壹人野村方ヘ来リ呉ヨト自分即チ野村方ニ至リタリ時ニ野村云扨拙者ハ先刻一應御話ヲ聞タルカ尚同僚中ニ委敷御直話ヲ聞タキ者両三名アリ依テ本営ヘ来リタレヨト夫ヨリ直ニ本營ヘ至リ伊藤某外ニ両名（名覺エス）アリテ面會セリ先方ヨリ自分等此度来リタル所以ヲ問フニ付自分ヨリ曩ニ野村ニ申述タル如ク陳述セリ伊藤云足下ノ言尤ノ旨意ナレ𪜈桐野ヘ二三日前迄ハ江代ニ居リタレ𪜈此節場所ヲ轉シタル様子ニテ當今所在詳カナラス付テハ愈江代ニ居ルヤ否其詮議ヲナスヘキニ付足下方ハ同三日間此地ニ逗留セヨ其内分リ次第面會ノ運致スヘシト然ルニ今ノ旅宿ニ逗留シテハ足下方御身ノ為ニヨロシカラヌユヘ本営ニ引移ル

可ニ其訳ハ此地ハ曽テ政府ヨリ探索人来リ
居タル場所ニテ鹿児島ノ兵入モセサル迄ハ
戸長杯モ官軍ニ随フカ更ニ曖
昧ナリシ且未タ官軍ノ探索人モ潜ミ居ル様
子ニ付戸長等ノ心情モ全ク信用ナリ難ク
未タ我軍ニ帰服シタル果ニヤモ知レサル位ナル
故ナリト依テ自分尤ニ存ジ然ラハ一旦帰宿ノ
上同行ノ者ト示談スヘシト申立別レ即チ旅宿ニ
戻リ藤好静ト談合ノ上其夜直ニ好静同道本
営ニ至リタリ尤其節野村ノ家来カ兵隊ノ如キ者
モ付添本営ノ一室ニ至リ一泊セリ
一五月十三日ニ至リ朝餐畢リテ帝来野村ニ
乞ヒ伊藤ニ面會シ藤好静ヨリ更ニ此度両

人ノ来リタル所以ヲ述ヘタリ右ハ好静ニ於
テハ前夜伊藤ニ面會セサリシ故ナリ且其節
好静言葉ヲ添テ云ク桐野ノ所在不分明ノ由
ナレ𪜈既ニ両三日前迄江代ニ居ラレシナラハ
失ツ江代ニ至リ江代ニテ尚又尋子タレハ分ラ
サルコトアルマシ一体我々ハ一日モ早ク桐野
ニ面會シ其上ハ速ニ帰縣ヲ望ムナリ尤我々
ノ此地ニ来リタルハ高知ニテ事ヲ起ス
ニハ如何ス𪜈キヤ又此地ニテハ此上如何ノ
方法ナルヤ何分其返答ヲ承知サヘスレハ必
ニモ桐野ニ面會セストモヨロシ依テ我輩ノ
目的トナス処ヲ指揮アリタシト伊藤答テ云
フ然ラハ桐野ノ所在ハ分ラサレ𪜈江代ニ至

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

ルヘシ兵隊ヲ一名差添フヘシト

一右應接中先方同三名ノ者余程疑ヒ居ル様子ニテ戦争ノ景況ヲ詰スニモ委敷ハ語ラス又現今ハ何処テ戦争ヲ居ルト云フ事モ語ラス只自分等カ此地ニ来リシ所以ヲ反覆尋問ノ上漸ク桐野ニ面會ノ事ヲ許サレ江代ニ行クト決シタルナリ

一自分カ野村等トノ應接談ハ先方一々尤ト承諾シタルトモ云又余程疑惑ヲ受ケタリトモ云前後照應セサル申立ナリト御詰問アレ𪜈自分ハ素ト不雑舌ノ者故外ニ致方ナシ今ヨリハ一言モ申立サルニ付此侭ニテ御処分ヲ頼タシ

一唯今一言モ申立サルニ云々ト申上シハ過言ニテ甚恐入ナリ一体藤好静両人ニテ野村ニ面會シタル節ニ野村カ御尤ナリト云タル言葉ハ自分カ申誤リナリ野村ハ左様テアルカト云ヒタル言葉カ尤ト云フ様ノ景況ニテアリシナリ

一先方ヨリ疑ハレテ反覆詰問サレシ應答ノ顛末ハ一々覚エサルニ付今ニ至テハ申立難ケレ𪜈最初野村ニ約定シテ明朝江代ヘ出立ト決シタルニ又他ノ同僚ヨリ其同事情ヲ聞タシト申シ旦本営ニ於テ両三日モ逗留セヨト云ハレシハ即チ自分等ノ心中ヲ探ラシ為メト察シタリ是余程疑惑ヲ受ケタリト申上

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

タル所以ナリ却説既ニ市来ハ陳中ノ条謀ト
カヲモ勤メ居リナカラ桐野ノ宿所ヲ知ラサ
ルトハ訝カシキ次第且ツ我々ヲ一室ニ入レ
テ逗留サスルトハ我々ノ心中ヲ探ニカ為メ
ナルヘシ仍テハ我々畏縮ノ模様ア
レハ益疑ヲ受ルニ付故サラニ朝モ遅ク起キ
悠々トシタル姿ヲ見セルカヨシト好静ト申合
タルナリ其疑ヲ受タル言葉ノ頗未ハ聢ト覚
エサルニ付申供中粗漏ノ段ハ自分ノ不調法
ナリ
一自分等両人彼地ニ至リシ原因ヲ野村等ヨリ
反覆尋問サレシ次第ヲ申立ヘシト御詰問ア
レヒ先方ヨリ別段何社ノ何某ヨリ使ニ来リ
タルヤトハ問ハス只自分等ヨリ我輩ノ同志
ハ千人計リアリテ其外事ヲナス時ニハ共々
カヲ併スルモノモ澤山アリト云タルヲニテ
何社ヨリ何某ノ使ニテ来リタリ扨トハ虚ニ
モ申サス桐野ニ逢ヒタル節モ同様ナリ
一高知縣廳始尽ク鹿児島ニ應スルト云ヘハ素
ヨリ都合ヨカルヘキカナレヒ柳モ出發前好
静ト申合セタルニハ高知ニ於テハ縣廳モ共
々事ヲナス抔ト云ヘハ却テ媚ヲ呈スル様ニ
思ハレ疑ヲ受ルニ付純粋ノ体ニ云フ方カヨロ
シト談置タルヿユヘ野村并桐野等ニ向ナハ
縣廳ト政府黨トヲ除キ尤是迄各社異論ニテ
黨派モ分リ居タレヒ素ヨリ事ヲ起スヘキ日ニ至

テハ合併一致ノ心底ナリ我々ハ其内ノ過激黨ユヘ早ク事ヲナシタキ者ニテ同志千人計リアリト申シタル様覚エリ然レ𪜈先方ヨリ其過激黨ハ誰々ト尋子ハナカリシニ依リ自分ヨリモ亦言ハサリシナリ

右之通相違無御座候

高知縣士族

明治十年八月廿九日　村松政克拇印

215900
9
昭和25年10月18日

第八号　第二冊

明治十年八月廿三日申立

高知縣士族

村松政克

一五月十三日晝頃延岡出立美々津ニ一泊セリ

一五月十四日「ミカド」一泊ト覺エタリ

一五月十五日湯山ヘ一泊セリ

一五月十六日朝江代ニ着（湯山ヨリ江代迄一里斗リナリ）桐野本營ノ向ナル町家ニ一時休息シ其内付添ノ兵ヨリ自分共条リタル旨ヲ桐野ヘ報シ間モナク桐野面會シタリ其節桐野ハ平服ナリ同席ノ人數ハ両人（名覚エス）其内一名ハ輜重方ノ者ト聞ケリ自分共ニ付添タル兵隊モ同席ニテ都合四人ナリ本営ノ側ラニ長屋アリテ兵隊

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

詰居ル様子ナリ其人数ハ凡ソ十人カ二十人位カト想像セリ門前杯ニハ徘徊シ居ル兵隊ハ皆帯刀シテ或ハ筒袖ノ衣服ニサシ下駄ヲハキタル者モアリタリ一延岡ニテ既ニ疑ハレタルニ付桐野ニ面會セハ此上如何ノ事ニ逢ヤト恐縮シタレ共最早爰ニ至リシ上ハ迚モ空シク歸ル能ハス総令捕縛セラルヽ共寧ロ進ニ如カスト存シ即チ面會シタル処案ニ相違シ桐野ニ於テハ更ニ疑フ色ナシ自分共先ツ一應ノ挨拶ヲ述ヘ續テ云フ今度御縣ニテ事ヲ起サレタルニ付テハ我々モ同意ノ一ナリ右ニ付色々陳詰ヲイタシ度キモアリ又承リ度キモアリテ我々両名来リタリト時ニ桐野直チニ一通ノ手紙ヲ出シ示セリ自分等之ヲ一見シタル処三浦分雄ノ口上ヲ以雄カ同僚ノ者書取リテ桐野ヘ送リタルモノト見受タリ其手紙ノ始メニ今度高知縣ノ三浦分雄ナル者歸縣シ彼地ニ於テ探偵ノ景況左ノ如シトアリ其文中ニ高知縣ニハ同志凡三千人程アリテ来月中旬比ニ九州ヘ渉リ有栖川宮ノ本營ヲ衝突スルノ策ヲ運シ居ルトアリ又板垣ハ當三月ニ帰縣シタレ共只山ニ猟リシ川ニ釣シテ日ヲ送リ居ル様子ナリトアリ時ニ桐野云フ右ノ手紙ニテ分雄ノ帰縣シタルヲ承知セシナリト自分云フ此度當地ニ来リシモ實ハ分雄ヘ面會ノ上

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

先生ヘ面會ヲ乞フヘキ筈ナリシカ介雄ノ所
在分ラサルニ付直ニ推参シメリサテ其書中
ニ同士三千人程アリテ云々トノコトハ何分ヲ
解シカタシ恐ラクハ虚説ナラン現場夫丈ケ
ノ兵アルナラハ我々ノ知ラサルコトナシ併シ板
垣ノ進退ハ此書面ノ通リ相違ナカルヘシト
夫ヨリ追々談話ヲナス内桐野ヨリ格別ニ両
人ノ来リタル旨意ヲモ質問セス只意味ヲ含
テ戦争ノ勝利諸シ或ハ鎮臺ハ弱ナリトカ巡
査ハ強ナリトカ云位ノコトナリシニ依テ自
分ヨリ曩ニ好静カ延岡ニテ申述タル通リ今
高知ニテ事ヲ起セハ兵ノ方向ハ如何ス
ヘキヤ右ノ方法ヲ承知ノ上ハ一日モ早

ク歸縣盡力セシ此先キ先生ノ兵ヲ
進ムルハ如何ノ策ナリヤト質問
ニ及ヒシ処桐野云今高知ニテ事ヲ挙レハ此
方モ至極仕合ナリ我輩兵ヲ進ムルノ見込ハ
先豊後路ニ出テ福岡ヨリ九州ヘ廻リ長崎ヘ
居ヲ占メ何所ニテ彈藥器械ヲ西洋人ヨリ買
取リ又軍艦モ買上ケ夫ヨリシテ上方ニ赴タ
積リナル乍ヘ高知ニテ事ヲ發スルナラハ先
佐賀ノ関ヲ渉リテ長崎景寧ニ出ルヘシト自
分云自分ハ帰縣ノ上其方法ヲ以テ周旋ス
ヘシト右様談話ノ末桐野云熊本ノ園ヲ解タ
ルハ甚遺憾ニ堪スシカシ其節ハ彈道ヲ断レ
其上ニ重ニ攻ラルヽ場合ニナリ不得止此處ニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

引取リタリ尤最初ノ軍議ニテハ熊本城ハ名
城ナルニ付容易ニ抜ケマシキニ依テ之ヲ圍マス
シテ向ニ渉リ九州ノ地方ニ突出スルカヨカ
ルヘシト林ト議論區々アリタレ𪜈遂ニ熊本城
ヲ圍シタルカ目的違トナリタリト云ヘリ自
分共問左府公ハ如何シテ居セラル、ヤト桐
野云フ現今鹿児島ハ軍艦数艘来リ大戦争中
ナルニ付左府ハ避ケテ櫻島ニアリト笑ヒナ
カラ申シタリ自分云フ鹿児島ニテ事ヲ挙
ル前何ヲ以テ高知縣ニ通達ナキヤ若早ク通
達アレハ我々ニ於テモナスヘキ事モアリタ
ルニ総テ通達ノナキハ高知縣ハ弱兵ニテ頼
ムニ足ラストノ御見込ナリヤト桐野云フ夫
ハ外々ニモ見込ノ縣アリテ既ニ十八名ノ使
ヲ出シタリ然ルニ其使ノ者ハ中途ニテ縛セ
ラレ高知ヘ差出セシ使モ福岡ニテ縛セラレ
不得止次第ナリト自分問兵粮器械ハ十分ア
ルヤト桐野答ノ様子曖昧タリシニ付強テ問
ヘハ其氣ニ悖ルヤモ知レスト遠慮セシカ右
口上振ニテハ弾薬ハ余程窮シテ居ル様子ニ
推量セリ桐野ニ面會シテ談話ヲナシタル顛
末先ツ如此次第ナリ
一自分共ニ於テハ素ヨリ誰ノ命ヲ受タルニ非
ス又何社ノ使ヲ勤メタルニモ非ス只自分
共両人ノ心得迄ニテ日向ニ行キタリト申立
レトモ心得難キ申立ナリ如何トナレハ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

初面會ノ桐野ニ對シ
児島ニテ事ヲ挙ルニ高知縣ニ通達ナキハ如
何云々ト問ヒ桐野モ亦其初面會ノ両人ニ着
ルニ既ニ高知縣ヘモ使ヲ出シタレ氏云々ト
ハ何社カ又ハ何某カヨリ桐野等ヘ豫テ通知ノ
モアリテ其使タル者ノ口上ナレハ其着振モ
左モ有ヘシト聞ユルナレ氏左ニ非サレハ更ニ縁故ナ
キノ應酬談判ニテ事理ニ於テアルヘカラ
サル次第ナリ其辨解如何トノ御詰問ハ成程
御尤至極ト存スレ氏今ヨリ当時ヲ追懐スレ
ハ只茫乎タル心地スル迄ニテ今更其辨解ハ
出来サルナリ

右之通相違無御坐候

高知縣士族

村松政克拇印

明治十年八月廿九日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

215900
10
昭和 年 月 日

明治十年八月廿四日申立

高知縣士族
村松政克

一自分江代ニ於テ桐野ニ應接ノ眼目ハ既ニ昨日申上タリ其余雜話中自分ヨリ京攝間兵備手薄ナル事又壯兵徵募ニ付岩倉公ヨリ華族ニ御演說ノ風聞等ヲ語レリ其餘二箇條程自分ヨリ桐野ニ語リシヿヲ京都府ニ於テ申上タル其箇条ハ記臆セス

一西郷ヨリ別府新介ニ贈リタル五月十七日ノ書翰御読聞ノ趣拜聽セリ自分ヨリ桐野ニ談話セシ箇條ヲ詳說スルハ右書翰ニ記載ノ通相違ナシ尤其中官軍ニ於テハ休戰ヲ望ム

事又片岡ハ器械弾薬周旋ノ為上坂セシ事并
ニ四國ニ於テ松山ハ不同意ナレ𪜈致方ナシ
トノ三ヶ条ハ自分共ヨリ話セシ覚ナシ四國
ハ残ラス應ヌル勢ナリト語リタリ此松山ノ
事ハ京都府ニテモ御尋アリテ同様申上置キ
タリ

一五月十五日カ十六日カ江代ヲ発シテ帰途ニ
就キ（最初通行セシ道ハ余程險悪ナルニヨリ此度ハ迂路ヲ取リ米良通リヲ通行セリ）
十九日朝美々津ニ着シ付添ノ兵（最初付添ヒタル竹添ナリ）
ノ周旋ニテ舩ヲ雇ヒ十九日夕出帆セシカ
風順宜カラサルニ付島ノ浦ニ一泊シ廿一日
夕高知縣天地（アマヂ）ニ着シ廿四日カ五日カニ帰宅
セリ

一自分ハ出立ノ節戸長ヘ九十日間ノ他行ヲ届
ケ置キタルヿユヘ帰宅ノヿハ急ニ届ルニ及
ハスト存シ終ニ届ケ出テサリシナリ

一帰着ノ翌日カ翌々日カ日州行ノ事ヲ談話セ
ニ為メ自分藤西人板垣宅ニ至リ面會ヲ乞ヒ
シニ執次ノ者云今日ハ将ニ客来アラント待
居ルニ付面會出来スト因テ自分共ヨリ急ニ
面會致度事件アリテ参リタル旨申入レ終ニ
面會ニ及ヒタリ其節自分共云拙者共ハ日州
ニ行キ一昨日帰リタリアチラノ情實粗承知
セシ故談話ノ為メ来リタリト板垣云左様デ
アルカ定メテ珎話アルヘシ然ルニ今日ハ已
ニ客来ノ筈ニ付後日御入来アリタシ緩々御

話兼ルヘシト是ニ於テ直チニ自分共ハ立帰リタリ

一板垣ニハ只日州ニ行テ帰リシト申聞タル迄ニテ桐野ニ逢ヒシヿ等ハ語ラサリシナリ

一日州ニ行タリト申聞タル時板垣ハ別段驚愕セル色ナク又譴責モセス又何ノ為メニ行キシヤトモ問ハサリシナリ

一板垣ニハアチラノ様子ヲ粗承知セリト云ヒシ迄ニテ賊軍ノ様子ヲ承知セリトハ云ハサリシナリアチラノ様子ト云フ語ニ付板垣ハ別ニ疑問モセサリシナリ

一板垣ニ面會後翌日カ又翌々日カ自分藤両人開成舘（旧知事ノ所有ナレ氏当時立志社ニ借用シテ学校トナシタリ）ニ於テ池田應助山田平左衛門岩崎小吉谷平二ノ四人ニ面會セリ

一自分共カ日州ヨリ帰リシヿヲ藤ヨリ右四人ニ告ケタルカ開成舘會合ノ事ハ藤自宅ニ参リ自分ニ通知シ夫ヨリ同道シテ往キタリ

一會合ノ当日午後二三時頃藤自分宅ニ立寄リタルニ付自分ハ藤ト同道メ立志社ノ本社ニ立寄リ池田等四人ト同道メ開成舘ニ行ケリ

一開成舘ハ至極閑静ナル故此処ニ會合シタルナリ舘内ニテ番人ラシキ者ノ妻子ヲ見受ケタル迄ニテ他人ヲ見ス

一舘内ニ於テ日州行ノ事ハ桐野ニ面會セシヿ具外漏ス處ナク具ニ語リタリ尤縣廳詐偽ノ

届ヲナシタルヿハ語ラサリシナリ

一其節四人ノ者云陳日片岡ハ建白ノ為メ上坂セリ尤未タ建白書ハ出サヌ様子ナリト自分云西南ノ変動容易ニ鎮静ニ至リ難シ此上ハ共ニ方向ヲ定メ禍乱ヲ平定シ万民ヲメ安堵セシムル様尽力スヘシ是ヒ國民ノ本分ナリ足下等ノ定論ハ如何ト四人ノ者云外ニ仕方ナシ先片岡カ建白ノ行ハル、様尽力スルニ如カスト夫ヨリ暫時雑話ニ及ヒテ一同立去リタリ

一

右之通相違無御座候

高知縣士族

村松政克拇印

明治十年八月三十日

215900
〃
昭和25年6月18日

第九号 第二冊

明治十年八月廿四日申立

高知縣士族
村松政克

一京都府ニ於テナセル口供ニハ自分共池田應助等四人ニ向ヒ我縣ニテモ事ヲ挙ルヿヲ桐野ニ約セリ因テ處置アルヘシト遮テ勸メタレ𪜈四人ノ者其氣色ナカリシト申立居本院ニ於テ今日ノ申立ハ大ニ齟齬スル旨御詰問アレ𪜈事ヲ挙ルヿヲ桐野ニ約セリ云々ノ事ハ自分之ヲ語リタル覚ナシ併シ一旦京都ニ於テ其口供ニ拇印セシ上ハ致方ナシ

一京都府ニ於テノ自分ノ口供ニ日州行ノ事情ハ四人ノ者ヨリ板垣ニ委敷談シ置クヘキ由

申スニ付其後板垣ニハ参ラストト有之抑板垣
ハ元参議ノ職ニ在テ今ノ猶ホ四位ヲ辱フスル
人ナレハ万一自分共カ賊桐野等ト反逆ノ事
ヲ約シタルヲ聞ケハ直ニ縣廳ニ告ケテ捕縛
スルハ當然ナリ然ルニ日州行談話ノ為メ自
分共態々板垣ヲ訪ヒ其後池田等四人カ板垣
ニ談シ置ヘシト云ヒシヨリ行カサリシトト
アレハ板垣ハ自分共カ反逆ヲ謀リタルヲ承
知シナカラ其咎置タルヤ如何ニモ不
審ノ至ナリトノ御詰問アレハ自分ハ先刻モ
申上タル通池田等四人ノ者ニ向ヒ挙兵ノ
ヲ桐野ト約シタルニヨリ是非事ヲ挙ケヨト
云ヒシ覚ナシ唯此騒乱ヲ坐視シテハ済マヌ

一ナリ足下等ノ意見ハ如何ト云ヒシノミナ
リ全体京都ニ於テ口書御読聞ノ手續ハ当院
ト違ヒ親シク口書ヲ拝見スルニハ非スメ只
拝聴スルノミノナレハ自分ハ能ク口書ノ事
柄ヲ了解セスメ粗忽ニ拇印セシ上ハ致方ナケレ共自分ノ口供
ニ因テ池田等四人モ連坐ニナリニテハ如何
モ慨ムヘキノ至リナリ

一自分京都府ニ於テノ口供ニ薩軍ノ強弱等見
聞ノ上民撰議院設立ノ義屢建言シ若シ御採用
ナキ時ハ兵器ヲ以テ闕下ニ迫リ事ヲ成スヘシ
ト藤ニ約セシト有之右兵器ヲ以テ闕下ニ迫ル
ハ即チ反逆ノ事ナリトノ御詰問アレ共京都

ニ於テハ再三再四建言ヲナシ若シ御採用ナクハ
如何スルヤト嚴ニク責問アリシユヘ自分ハ
幾度建言シテモ理由ナク唯々無理ニ抑壓
セラルヽトキハ兵器ヲ以テ迫ルヘシト云ヒタ
リ自分思フニ政府人民ヲ抑壓スルニ至リテハ
最早政府ニ非スメ國賊ナリ国賊ヲ除クハ国
民ノ義務ニメ反逆ニアラス右ノ通申
上タルナリ

一京都ニ於テハ此未到底ノ所ヲ御尋問アリシ
ニ付自分ニ於テモ若シ此ノ如キ政府アルキ
ハ此ノ如クスヘシト云ヒシニハアラス今ノ政
府ヲ顚覆スヘシト云ヒシニテ今ノ政府ヲ
自分縣廳ヲ欺キ反逆人ノ桐野ニ逢ヒシ等ノ
形跡ニ就テ論スルヨハ自分モ即チ謀反人ノ
名ヲ下サレテモ決メ不服ト思ハサルナリ今
日トナリテ往事ヲ追懐スレハ何故ニ此ノ如
キコトヲヌ事ヲ為シタルカト只茫然トシテ
後悔セシノミ

一自分此度国元ヲ発シテヨリハ七十日余ニ及
ヒ入監後モ既ニ四十余日ヲ経タルニ付何卒
速ニ御處刑ヲ願ヒタシ左如何ナル御處刑ニ
テモ決シテ不服ハ申上ケサルナリ

215900
12
昭和 年 月 日

右之通相違無御座候

高知縣士族

明治十年八月三十一日　村松政克拇印

明治十年八月廿七日申立

高知縣士族

村松政克

一自分京都府ニテナシタルコト口供ノ通リ開成館ニ於テ池田應助等ト分レ其翌日カ翌々日カ藤好靜桑原之成野崎正朝廣田伸武同道私宅ヘ来リ談話ヲナシタルハ相違ナシ尤預メ談日ヲ期シタルニ非ス唯平素遊會ノ節ト同様ニ話シタリ其事柄ハ日向地方ヘ至リ桐野等ヘ面會シタル顛末ノ話ヲナシ而シテ高知縣ニ於テモ此儘ニ何事モナサス因循シテハ今日ノ時態ニアルマシキヲナリ且万一乱妨人我郷土ヘ来ルモ難計ニ付豫テ其豫防ヲナ

シ置クヘク兎角人氣一和シテ志アル者ハ共々肺肝ヲ吐キ追々有志輩ヲ會合シテ諸事ヲ議決セハ必仕損シハアルマシクト話ヲナシタル迄ニテ外ニ談話ハセサルナリ

一京都府ニテノ口供ニハ開成館ニテ谷平次ノ論スル處ヲ相咄シ候処之成等私共ト同意シタル旨申供シアルニ前条ノ申立ハ支等ノ義無之前後相違セリト御詰問アレ氏京都府ニテ申立タル事柄ハ失念シ居ルケ条モアルナリ尤藤好静トハ素ヨリ同志ナレ氏桑原等ハ左ニ非ス依テ桐野ト此ク約束シ参リタルニ付共々桐野ニ荷擔シ兵ヲ起スヘクト明ラカニ談話シタルニ非ス唯今申上シ通リ因循シテ居ル時態ニ非ス同志ヲ募リ協議シテ國家ノ為メニ尽力スヘシト申シタルナリ

一素ヨリ反逆ヲ謀リタル自分ノ丁ユヘ今ニ至テ決テ包藏セス明白ニ申立ルナレ氏桑原等ニ向テハ池田等四人ハ頼ムニ足ラサルニ付別ニ同志ヲ募ラント約定シタルニ非ルナリ京都府ニテノ口供ニ私共ト同意トアルハ唯自分ノ心中ニテ桑原等ハ定メテ同意セシナラント認メタル丁ニテ其桑原等ノ心意ニ於テハ如何心得タルヤ自分ハ了解セサリシナリ

一右ノ通ノ心得ナレ氏既ニ京都府ニテ拇印モナセシ以上ハ全ク其通リナルヘク今更反異

セサルニ付此際ニテ御處分ヲ願ヒタシ

一小山茂平太宮田熊太郎井上直心等一説キタルハ三人ノ心中ヲ試ミタル旨意ナリシカ三人ハ應スヘキ模様ナカリシユヘ其後ハ何ヲモ談セサリシナリ京都府口供ノ通相違之ナキナリ

一六月四日頃陸軍省ヨリ神田屋政兵衛所持ノ銃器彈藥云々ノ注ニ談縣壯士大ニ憤慨シ云々トアルハ京都府ニテ高知縣ノ景況ヲ御尋ニ付自分ノ想像セシマヽ且縣下一般ノ景況ヲ申上タル次第ニテ京都府口供ノ通相違之ナキナリ

一六月四日頃陸軍省ヨリ云々甚失望ニ付藤好

静ト共々再ヒ林有造方ニ立越云々トアルハ畢竟神田屋所持ノ彈藥ヲ以テ自分義反逆ヲナス積リナル処陸軍省ヨリ御買上ニナリテハ其手筈ヲ失フニ付即チ失望シタリト申立テシナリ

一林有造方ヘ立越タル旨意ハ實ニ今日ノ景況ニテハ何時戰地ノ流賊我郷土ヘ来リ騒擾スルモ難計ニ付右神田屋ノ彈藥ハ高知縣下ヘ不廻ノ備ニ止メ置ク策ヲ旋ラシ度其策ハ如何ト相談ノ為参リシナリ然処有造云今日兵ヲ挙ルノ大義名分ナシ且左様ノ事ヲナシテハ反逆同様ニナルニ付止ムヘシト

一反逆ヲナサントスル位ノ奸悪ナル自分ユヘ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

是迄申立タル義始終齟齬ナク夫々一貫スル
ヿハ決テ出来サル ナリ況ヤ道理ニ適当スル
事ハ尚更出来サル ナリ 且
一京都府ニテナシタル十年七月二日ノ口供ニ
暗殺云々ノ儀ハ弾薬ノヿニ付藤ト同道林有
造方ニ至リシ節有造ヨリ聞タル ニハ相違ナ
シ然シ乍其節自分ハ有造ノ申ス処甚信用シ
難ク必虚言ナラント存シタル故テ委敷尋問
モセス且所謂茶呑話ト中ノ
シタリ依テ京都府ニ於テ御糺ノ節ハ一旦ハ
更ニ存セサル旨ヲ申立タレ共其際好静ト
對決ヲ命セラレ好静ニ於テ有造ヨリ
兼知セシヿヲ申立ユヘ自分モ其通リナリ

ト申立シナリ
一右有造ヨリ暗殺ノ咄ヲ聞シ同日カ又翌日カ
之成ニ面會ノ処之成モ暗殺事件ヲ有造ヨリ
兼知シタリト自分ヘ申聞タレ共其委敷ヿハ自
分ヨリモ尋問モセス尤之成ノ口上ハ京摂間
ニテ暗殺ヲ計ル者七八名アリト林カ話シタ
リト申タリト覚ユ

右之通相違無御座候

高知縣士族
村松政克 拇印

明治十年八月三十日

215500

明治十年十月十七日

高知縣士族
村松政克拇印

215900
/3
昭和 年 月 日

第拾一号

明治十年十月十七日午後申立

高知縣士族　村松政克

一自分日州行ヲ企テ発足ノ前日藤好静ト両人同道片岡健吉宅ニ至リ旅費金借用ノコトヲ依頼セシ所健吉承諾シテ金百圓ヲ貸呉シ返済ハ心配ニ及ハスト云ヒシユヘ自分ハ帰縣ノ上返済スヘシト答ヘ置ケリ尤借用証書ハ差入レサリシナリ

一好静ハ日州行旅費借用証書ヲ健吉ニ差入シ其証書ハ村松政克カ執筆セシ様記臆スルト供述セシ旨仰聞アレニモ右借用金ハ無利足且無期限ノ契約ナレハ証書ヲ差入ルヽ迄畢竟

無益ノヿユヘ自分ニ於テハ右証書ヲ認メ健吉ニ差入タル覚ナキナリ併シ自分ト好静ト申口齟齬スルヿナラハ何卒両人對質被仰付度ナリ

一自分ハ好静ヨリ依頼ヲ受ケ好静一名ノ日州行旅費借用証書ヲ代書シタルヿナシ又好静カ日州行旅費借用証書ヲ健吉ニ渡シタルヲ見受ケタルヿモナシ尤借用金ハ自分好静ト一同健吉宅ニテ受取タルナリ

一自分ハ元来實印ヲ所持セス尤従前自宅ニ有合ハセタル印判（囚形ニシテ墨字ナリ見認印ヨリハ大ナリ尤文字ハ分ラスト）むら湯ノ四文字ヲ刻セシ見認印（囚形ニシテ朱字ナリ）トヲ所持シ實印又用ノトキハ右両様ノ内ヲ用ヰタルナリ

右之通相違無御座候

高知縣士族

明治十年十月廿四日　村松政克　拇印

215900
14
昭和25年10月18日

別紙

証

一金札百圓也

右九州行旅費ノ為メ無據入用ニ付借用申處實証也返濟ノ義ハ帰縣ノ上皆済可致為後証如件

月日

藤好静

村松政克〇墨印

片岡健吉殿

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 334-1

215900
昭和 年 月 日

第拾貳号

右之通相違無御座候

明治十年十月廿三日

高知縣士族
村松政克 拇印

明治十年十月廿三日午後申立

高知縣士族
村松政克

一是迄段々御審問ノ節自分等日州行旅費金ノ
片岡健吉ヨリ借用セシ件自分ハ其借用証書
ヲ怒メタル覚ナク又其借用証書ヲ健吉ニ差
入レタル覚ナキ旨申上ケ并ニ去ル十七日自
分好静ト對質ノ節モ右同様申張リシカ右ハ
全ク偽ニメ實ハ其日州行旅費金借用証書ハ
自分之ヲ認メタルニ相違ナク又其日州行旅
費金借用証書ヲ健吉ニ差入シタルニ相違ナ
キナリ自分好静ト對質ノ節好静ハ強テ自分
ノ陳述ヲ辨駁ニモ及ハス旅費金借用証書ヲ

健吉ニ差入レタルヿハ好静一人ニテ引受ル様ナル景況ニメ其申口甚曖昧ナリシカ其後自分熟考シテ以為ク上ニ對メ不実ノ申立ヲナシ好静ニ迄迷惑ヲ懸ケテハ如何ニモ不条理ノ至リナリト乃チ今日御呼出ヲ願ヒ前顕ノ通有体ニ申上ルナリ

一日州行旅費金借用証書用紙ハ無印紙証書用紙ヲ用ヰタリ其証書ハ自分執筆シテ別紙ノ通ニ認メ（証書ノ文面ハ確ト覚ヘサレ氏大畧別紙ノ通ナリ尤別紙証書面九州行ノ三字ハ日州行ト認メタルアヒ覚フ）自宅ニ有合ハセノ圓形ニシテ見認印ヨリ大ナル印判ヲ捺シタルナリ

右之通相違無御坐候